

三 長谷場文部大臣式辭

東京高等師範學校本日ヲ以テ創立四十年記念ノ式ヲ舉ク此ノ時ニ方リ
鶴駕

大命ヲ銜ミテ恭ク本校ニ臨マセラレ右文興化ノ義ヲ昭カニシ給フ

聖意深厚純孝等恭シク此ノ盛儀ニ陪シ感激措ク所ヲ知ラス

伏シテ惟ルニ教育ハ經國ノ大業ニシテ其ノ興廢ハ切ニ國運ノ弛張ニ關ス

今上陛下夙ニ教學ノ事ニ軫念シ給ヒ庠序ノ設日ニ備ハリ文教ノ化月ニ熙マル本校多年普通

教育ノ樞機ヲ秉リ以テ昭代ノ化育ニ貢獻セリ而モ帝國ノ進運ハ駸々トシテ窮マル所ヲ知ラ

ス本校ノ力ヲ將來ニ效スヘキ所益々多クシテ且大ナルモノアリ願ルニ本校草創以來

龍車爰ニ臨マセ給フコト既ニ兩回今又忝ク

殿下ノ台臨ヲ賜フ是獨リ本校ノ光榮タルノミナラス凡ソ教育ノ事ニ與ルモノ、均シク其ノ

寵光ヲ頌ツヘキ所タリ庶幾ハクハ純孝等本校ノ職員生徒竝ニ全國育英ノ業ニ從フ者ト與ニ

相率キテ鞠躬盡瘁職ヲ守リ責ヲ完ウシテ以テ

聖恩ニ答ヘ奉ランコトヲ

謹ミテ蕪詞ヲ陳ヘテ本日ノ式辭トナス

四 西園寺內閣總理大臣式辭

普通教育ノ源泉混々トシテ文運進暢ノ基根ヲ沃スルモノ茲ニ四十年枝葉蕃茂シテ華實俱ニ

成リ以テ今日ノ盛ヲ致ス願ルニ各府縣ノ教育皆源流ヲ此ニ發シ舉國均シク童蒙ヲ誘掖シ民

智ヲ啓發シ以テ昭代ニ寄與スル所ノ至大ナルコト今復言ヲ俟タス是ヲ以テ創立以來

車駕ノ親臨シ給フコト既ニ兩次今又創立四十年ノ記念式ヲ舉クルニ際シテ

鶴車親シク台臨シ給フ此レ獨リ本校ノ光榮タルノミナラス眞ニ我邦教育ヲシテ益其光輝ヲ

放タシムルモノタリ今ヨリ以往益其淵源ヲ遂ウシ益其啓沃ヲ洽クシ以テ聖世ノ進運ヲ扶翊

スル所アラムコトヲ望ム乃チ一言ヲ陳ヘテ以テ式辭ト爲ス

五 德川公爵式辭

本日東京高等師範學校建築落成ノ式ヲ舉クルニ當リ 皇太子殿下ニハ 天皇陛下御名代トシテ行啓アラセラレ家達モ亦此ノ席ニ列スル榮ヲ得タリ聊カ一言ヲ述ヘテ本校ノ爲メニ祝意ヲ表セントス

高等師範學校ハ實ニ普通教育ノ淵源ナリ國民精神ノ基ク所ナリ 聖明臨御以來夙ニ御心ヲ茲ニ注カシメ給ヒニタヒ 龍駕ヲ本校ニ扨ケサセラレテ教授ノ狀況ヲ叡覽アラセラレ今亦 殿下ヲシテ親シク其施設經營ヲ台覽セシメ給フ叡慮ノ存スル所實ニ遠ク且大ナリトイフヘシ

予聞ク本校創立以來茲ニ四十年卒業生徒ヲ出シタルコト三千餘人ナリト本校カ斯道ニ貢獻シタルコト甚大ナルハ予カ言ヲ待タサルヘシ將來本校カ益々 聖旨ヲ奉體シテ國民ノ思想ヲ堅實ニシ忠愛ノ精神ヲ養成シテ偏ニ文運ノ隆替ヲ期セラレンコト予ノ切ニ冀望シテ止マサル所ナリ

六 町田東京盲學校長式辭

爰ニ本日ノ佳辰ヲトシテ我カ東京高等師範學校創立四十年ノ記念式ヲ舉行セラレ畏クモ 皇上陛下ハ特ニ御名代トシテ 皇太子殿下ヲ代派セラル本校ノ光榮將タ何物カ之ニ加ヘン回顧スレハ明治五年始メテ我カ學制ノ頒布セラル、ヤ首ニ本校ノ創設セラレテヨリ爾來幾回カ學校制度ノ變更アリタルニモ關ハラス國民教育制度實施上ノ源泉トナリ以テ今日ニ至レリ今日我カ帝國々民教育ノ發達進歩ノ著大ナル之ヲ歐米各國ニ比シ敢テ遜色ナキニ至リタルハ蓋シ本校カ過去四十年間ニ貢獻セシ功績與カリテ偉大ノカアルコトハ固ヨリ何人モ直チニ首肯スル所ナルヘシ

恭シク惟ミルニ嚮ニ明治七年五月本校創立ノ業就ルヤ 車駕親臨其實況ヲ上覽アラセラレ尋テ明治十九年五月本校ノ規模ヲ擴張シテ高等師範學科ノ組織ニ改ムルヤ 車駕再ヒ親臨其授業ヲ上覽アラセラレ今亦本日ノ記念式ニ當リ特ニ鶴車ノ台臨ヲ恭ウスルモノ 陛下カ夙夜乾々トシテ獎學崇文ノ政ニ軫念セラレ深ク叡慮ヲ國民教育ノ源泉タルヘキ我カ東京高等師範學校ニ垂レ賜フノ厚キヲ拜察スルニ足ル於戲天恩優渥誰レカ感憤激昂セサルモノアラン況ヤ余等卒業生無慮三千餘人與リテ幸ニ榮施アルモ

ノ豈蹇々匪躬ノ誠ヲ致サスシテ止ム可ケンヤ
 翻テ宇内列強ノ趨勢ヲ觀ルニ日夜營々トシテ平和ノ競争ニコレ務メ殆ト底止スル所ヲ知ラ
 サルノ勢アリコノ競争場裡ニ立チテ能ク輪贏ヲ決セントハ國民ノ品格ヲ高尚ニシ國民ノ思
 想ヲ向上シ國民ノ元氣ヲ振作セサル可カラス品格ヲ高尚ニシ思想ヲ向上シ元氣ヲ振作セン
 ニハ一ニ國民教育ノ發達進歩ニ待タサル可カラス
 而シテ我東京高等師範學校ハ實ニ國民教育ノ源泉タリ故ニ本校ノ隆替ハ直チニ國民教育ノ
 盛衰ニ影響スルヤ大ナリ語ニ曰ク欲流之遠者必浚其泉源ト我カ東京高等師範學校ノ國家ニ
 於ケル位置實ニ重且大ナリト謂フ可シ
 茲ニ創立四十年ノ記念式ヲ舉ケラル、ニ當リ唯ニ報文反始ノ古義ヲ追フノミナラス更ニ進
 ンテ本校ノ基礎ヲ鞏固ニシ本校ノ規模ヲ擴張シテ以テ益々我カ國民教育ノ發展ニ資シ
 聖恩ノ萬一ニ對揚スル所ナカル可ラス聊カ蕪辭ヲ述ヘテ以テ本日ノ盛典ヲ祝シ併セテ將來
 ニ期待スル所アラントス

第二 明治四十五年三月本校卒業證書授與式

一 長谷場文部大臣祝辭

卒業生諸子諸子ハ夙ニ教育ニ志シ本校ニ學フコト多年今ヤ業ヲ了ヘテ任ニ各地ニ就カント
 ス本大臣ハ爰ニ諸子ガ卒業ノ榮譽ヲ祝スルト共ニ聊カ所懐ヲ述ヘテ諸子ニ諗クル所アラン
 トス

我國民教育ノ要義ハ聖勅ノ御趣旨ニ基キ健全ナル國民ヲ養成スルニアルハ言ヲ俟タスシテ
 明カナリ而シテ方今ノ情勢ハ特ニ此ノ國民教育ヲ振作シテ崇高ナル國民ノ性格ト堅實ナル
 國民ノ常識トヲ涵養スルノ最モ緊切ナルモノアルヲ見ル諸子モ深ク記憶セララルル如ク客秋
 本校創立四十年記念式ニ方リ畏クモ 皇太子殿下 御台臨アラセラレ親シク本大臣ニ傳達
 シ給ヘル御沙汰書ニ於テ

健全ナル國民ノ養成ハ普通教育ノ振興ニ俟ツ其ノ局ニ當ル者益々勵精セヨ

ト仰セラレタルハ 陛下カ常ニ教育ニ御軫念アラセラレ普通教育ニ從事スル者一般ニ對シ
 特ニ激勵セサセ給ヒタルモノト拜察シ奉リ本大臣ハ諸子ト共ニ實ニ感激措ク能ハサル所ナ
 リ諸子カ平素期スル所元ヨリ茲ニ在ルヲ疑ハス而シテ諸子カ是ヨリ出テテ從事セントスル

所ハ國民教育ノ淵源タル師範學校若クハ國家ノ中堅タルヘキ人物ヲ養成スル中學校等ニシテ教育上國家カ諸子ノ努力ニ期待スル所寔ニ大ナルモノアリ諸子ハ宜シク其ノ責務ノ重且大ナルヲ思ヒ至誠一貫其ノ職ニ盡シ以テ優渥ナル聖旨ニ答ヘ奉ルト共ニ國家カ諸子ヲ教養シタル本旨ニ副ハンコト本大臣ノ切望スル所ナリ

凡ソ學校教育ハ學校長及各教員等共同一致スルニアラスンハ克ク其ノ目的ヲ貫徹スルヲ得ス故ニ諸子出テ、學校ノ實務ニ服スルニ方リテハ克ク和衷協力以テ善良ナル校風ヲ馴致スルハ勿論各學科ノ教授ニ於テモ常ニ其ノ步調ヲ一ニシ徒ニ各自ノ專門ニ馳スルノ弊ヲ避ケ常ニ學校ノ目的ニ鑑ミ互ニ聯絡補益シテ全體ノ統一ヲ全ウシ以テ圓滿ナル效果ヲ收メントトヲ期スヘシ而シテ中等學校ニ於テハ今尙往々校紀弛ミ校風揚ラス教育ノ結果十分ナラサルモノアルヲ見ル諸子ハ新卒業生トシテ克ク從來ノ弊風ニ鑑ミ各自其ノ分擔學科ノ研鑽ニ勉ムルハ勿論又廣ク教育ノ全般ニ注意シ相倚リ相助ケ以テ普通教育ノ效果ヲ完ウセンコトヲ望ム

國民ノ體育ハ其ノ智德ノ教育ト相俟チテ國民教育上最重要ナルニ拘ハラス從來各學校ニ於テ實施スル所往々十分ナラサルモノアルハ本大臣ノ遺憾トスル所ナリ體育ヲ改善シテ國民身體ノ健全ヲ圖ルハ我國今日ノ情勢ニ鑑ミ又一日ヲ緩ウスヘカラサルモノアルヲ覺ユ體育

ノ事ハ體操ノ教授ニノミ一任スルカ如キコトナク各教員共ニ意ヲ此ニ用ヒ生徒身體ノ發達ヲ助長シ體育ノ效果ヲ一層顯著ナルニ至ラシメンコトヲ望ム學校教育ニ於テ更ニ留意セサルヘカラサルハ學校經濟ノ運用ニアリ蓋シ教育ノ事亦地方經濟ノ狀況ニ適應セシムルノ最緊要ナルハ敢テ嘷々ヲ要セサル所ナリ然ルニ近時ノ實況動モスレハ地方經濟ノ狀況ヲ顧念スルコトナク濫リニ設備ヲ飾リ形式ヲ重セントスルノ弊アルハ施設其ノ宜シキヲ得タルモノト稱スルヲ得ス諸子ハ深ク此ノ點ニ留意シ諸般ノ設備利用ノ方法ヲ講シ徒ニ輪奐ノ美ヲ競フカ如キコトナク以テ形式上ノ冗費ヲ節約スルト共ニ學校教育實質ノ改善ニ向テ銳意其ノ良績ヲ收メンコトヲ期スヘシ

尙特ニ諸子ノ注意ヲ喚起セント欲スルモノアリ凡ソ國民教育ノ重任ニ膺ル者ノ不斷ニ恪守セサルヘカラサルハ其志操ヲ堅實ニシテ其ノ職掌ヲ樂ムニアリ功名利達ニ眩惑シテ其ノ操守ヲ二三ニスルカ如キハ最誠ムヘキ所ナリトス諸子カ國民教育者トシテ重大ナル職分ヲ全ウスルハ實ニ地方青年ノ教育ニアリト信ス故ニ諸子任ニ赴クノ後ハ宜シク其ノ地方教育ノ事ニ安シ一ニ教養薰化ノ效績ヲ舉ケンコトヲ念トセラレンコト是レ本大臣カ切ニ諸子ニ望ム所ニシテ國家ノ諸子ニ期待スル所亦是ニ外ナラサルヘシ

終ニ臨ンテ附屬中學校卒業生諸子ニ一言セントス諸子ハ既ニ本校ニ於テ高等普通教育ヲ卒

へ將ニ各自ノ志ス所ニ進マントス今ヨリ以往更ニ專門ノ教育ヲ受クルト或ハ諸子ノ實務ニ從フトノ別ナク益々心ヲ智徳ノ修養ニ致シ身體ヲ強健ニシ專心一意其ノ志ス所ニ竭シ以テ他日ノ大成ヲ效サンコトヲ期スヘシ之レ諸子カ本校教養ノ厚恩ニ酬ユル所以ナリ

二 嘉納校長告辭

本校卒業生諸子諸子ハ今茲ニ本校ノ業ヲ卒ヘテ中等教育ノ實務ニ當ルコトノ出來ル資格ヲ得タ今後初等教育ノ任ニ就クモノハ多ク諸子ノ薰陶ヲ受ケテ教育者タル素養ヲ造ルノデア
ルカラ我ガ國民道德ノ涵養ハ主トシテ諸子ノ力ニ成ルモノト謂ハネハナラヌ凡ソ國運ノ發
展ハ國民道德ノ如何ニ因ルコトカ最モ多イコレニ由ツテ考ヘテ見レハ諸子ノ任務ノ重大ナ
ルコトハ言フヲ待タヌ殊ニ輓近歐米ノ文物ヲ輸入シタ結果新思想ハ舊思想ヲ動カシ封建ノ
制廢レ四民ノ階級失セ職業ノ自由選擇ヤ交通機關ノ發達ノ爲ニ激シク國民ノ移動ヲ來シテ
社會制裁ノ力ヲ弱メタルコトハ夥シイ隨ツテ道德教育ノ上ニ影響ヲ及ホシタルコトハ少ク
ナイサウシテ其ノ喜フヘカラサル結果ハ近時ニ至ツテ漸ク表ハレントシツ、アルヤウニ思
ハレル是ノ時ニ當ツテ勅語ノ御趣意ニ基キカヲ國民道德ノ樹立ニ盡スコトハ之ヲ諸子ニ望
マサルヲ得ナイ即チ各自專攻ノ學科ノ何タルヲ問ハスト此ノ點ニ就イテ能ク其ノ職ヲ盡
サネハナラス

次ニ中學卒業生ニ一言シヨウ諸子ハ是ヨリ多クハ高等ノ學校ニ進ムテアラウ高等ノ學校ニ
入ルニハ主トシテ學藝ノ試験ニ依ルノテアルカラ自然ニ人物ノ修養ヲ等閑ニスルヤウニナ

リ易イ併シ學藝ハ人ニカヲ與フルモノテアルカ其ノカヲ用フル方針ハ己ノ道德的品性ノ定
ムル所テアルカラ如何程學藝ヲ研イテモ根本タル品性カ修マラネハ本當ノ役ニハ立タヌ且
學藝ノ大成ハ遠大ノ目的ト不屈不撓ノ意志トヲ有シテ始メテ遂ケ得ラレルモノテアルカラ
一時ノ成績ニノミアセラス成業ノ本ヲ養フコトニ心掛ケネハナラヌ

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）

三 學事報告（教授吉田彌平）

卒業證書授與式ニ際シ前例ニ依リ本學年ニ於ケル當校ノ學事ニ關シ特殊ノ事項ニ就キテ其
大要ヲ報告セントス

第一 本校

一、卒業生

今回本校ヲ卒業スヘキ者ハ

研究科	十五名
本科	八十七名
撰科	三名
外國學生	十四名

合計百十九名ニシテ之ヲ創立以來ノ卒業生ニ通算スレハ其數實ニ三千二百四名ノ多キニ達
セリ

二、生徒

本學年ニ於テハ豫科生百二十一名文科兼修體操專修科生二十四名圖畫手工專修科生二十五

名ヲ入學セシメタル外新ニ專攻科ヲ設置シ修業年限ヲ二ケ年トシ本校竝ニ廣島高等師範學校ノ本科及專修科卒業生中ノ志願者ニ就キ優秀ナル者十五名ヲ選拔シ修身漢文部ニ入學セシメタリ來學年ニ於テハ豫科生百二十五名數學專修科生二十四名研究科生二十六名ヲ入學セシムル外更ニ專攻科英語部ヲ置キ給費生十五名私費生若干名ヲ入學セシムヘキ豫定ナリ而シテ專攻科私費生タルヲ得ベキ者ハ内外國ニ於ケル官公立ノ高等ナル學校ノ卒業生又ハ多年教職ニ從事シ相當ノ學識經驗ヲ有スル者ニシテ學校長ノ特ニ適當ト認メタル者ニ限ルコトトセリ

今回卒業スベキ者ヲ除キ本校生徒ノ現在數ハ五百二十五名ニシテ來學年ニ於テ入學セシムベキ者約百九十名ヲ合スレバ來學年ノ始ニ於ケル本校生徒ハ

專攻科	約三十名
研究科	二十九名
本科	三百四十九名
豫科	百二十五名
專修科	八十一名
撰科	三名

及ビ 特別學生 三名
外國學生 九十五名

合計約七百十五名トナルヘキ豫定ナリ

三、設備

附屬學校及寄宿舎ハ前年度ノ末ニ於テ全部ソノ移轉ヲ了シ教授管理上頗ル便利ヲ得タリ本年度ニ入りテハ寄宿舎ノ食堂ヲ増築シ炊事場及浴室ニ蒸氣裝置ヲ施シ寄宿舎ノ設備較々整フニ至レリ

四、訓練

生徒ノ訓練ニ關シテハ學校長及生徒監ハ期日ヲ定メテ訓話ヲナシ教育者ノ本分ヲ自覺シ之ニ對スル修養ヲ勉メシメ又時々懇談會ヲ催シ生徒ヲシテ談笑ノ間ニ自ラ修養ノ機會ヲ捉ヘシメンコトヲ圖レリ
規律ト衛生トヲ重シシ獻身的精神ヲ盛ンナラシメルコトハ常ニ本校ノ期スル所ナリ特ニ本學年ニ於テハ寮舎増築ノ完成ト共ニ寄宿舎ノ組織ヲ統一シ益々團體的觀念ヲ鞏固ナラシムルト共ニ互ニ切磋琢磨シ自ラ進ンテ本校生徒タルノ本分ヲ盡スニ於テ遺漏ナカラシメンコトヲ期セリ

五、講演會

本學年ニ於テハ軍事、林業及禮儀作法ニ關スル講演會ヲ開キ以テ生徒ノ健全ナル常識ヲ養ヒ且國民的精神ノ涵養ニ資スル所アラシコトヲ務メタリ

六、講習會

本校ハ更ニ進シテ卒業生ノ學力ヲ補充シ勤務上ノ指導ヲナサンカタメ前年度ヨリ卒業生講習會ヲ開クコト、ナリ本學年ニ於テハ動物學及地理歴史ヲ講習シ其ノ修了者合計四十七名ヲ出セリ

文部省ノ委囑ヲ受ケテ本校内ニ開催セル中等諸學校教員講習會ハ前後二回ニシテ英語數學劍道及柔道ノ三科ヲ講習シ其ノ修了者合計百五十九名ヲ出セリ

七、校友會

校友會ハ學校長監督ノ下ニ職員ノ贊助ヲ得テ本校生徒ノ經營スル所ナルカ其事實ハ年ヲ逐フテ擴張シ成績亦觀ルヘキモノアリ本年度ニ發行セル校友會發展史ハ同會發達ノ由來ヲ歴史的ニ叙述シタルモノナリ特ニ同會徒歩部ノ選手カ國際オリンピック競技會豫選大會ニ於ケルマラソン競走ニ於テ世界ノ記録ヲ破リタルハ獨リ同會運動部ノ實力ヲ事實ニ證明セルノミナラス亦以テ我カ國民ノ體力ト元氣トニ對スル自信ヲ一層鞏固ナラシメタルコトヲ信

ス

第二 附屬中學校

本日附屬中學校ヲ卒業スヘキモノハ五十六名ニシテ之ヲ創立以來ノ卒業業者ニ加フレハ其ノ數實ニ八百十八名ナリ而シテ新卒業生ノ大多數ハ更ニ上級ノ學校ニ進マントスルモノニシテ就中高等學校ニ入學セントスルモノ過半ヲ占ム

現在ノ生徒ハ本日卒業スヘキモノヲ除キ三百十一名ニシテ來學年ニ入リテ入學セシムヘキ者七十八名ヲ加フレハ總數三百八十九名ナリ

校舎ノ設備ハ前年度ニ於テ略完成シタルヲ以テ本年度ニ於テハ主トシテ内容ノ改良ト充實トニ力ヲ盡セリ

教授ニ關シテハ各教官イツレモ共同或ハ單獨ニ研究ヲ怠ラス國語漢文科ニ於テハ各學年ニ配當スル教材ノ選擇ヲ完了シ英語科ニ於テハ譯語ノ統一ヲ圖リ歴史地理科ニ於テハ廣ク外國ノ教材ニ關スル直觀資料ヲ蒐集シ物理化學博物科ニ於テハ生徒ヲシテ自ラ實驗觀察セシムル機會ヲ多カラシメンコトヲ圖レリ

訓練ニ關シテハ一般ニ質實剛健ノ氣風ヲ養成センコトヲ勉ムト雖モ少年ト青年トノ過渡期ニアル發育不同ノ衆生徒ヲ律スルニ劃一ノ訓條ヲ以テスルハ適切ヲ缺クノ憂ナキニアラス

此ヲ以テ本年度ノ初新ニ各學年訓育要項ヲ定メ一ハ訓練ヲシテ種々ノ發育階段ニアル生徒ニ適實ナラシメンコトヲ期シ一ハ是ニヨリテ全校訓練ノ調和統一ヲ保タシメンコトヲ期セリ

身體ノ鍛鍊ニ關シテハ新案ノ運動器械ヲ増設シテ諸種ノ運動ヲ獎勵スルコトヲ怠ラス在校生徒ノ組織セル桐陰會各部ノ活動モ亦次第ニ意氣ノ充實スルヲ見ルニ至レリ

第三 附屬小學校

今回附屬小學校ヲ卒業シタル兒童ハ總テ八十四名ニシテ現在兒童ノ數ハ四百九十名ナリ之ニ來學年ニ入りテ入學セシムヘキ兒童八十八名ヲ加フレハ總數五百七十八名ナリトス
教授上ニ於テハ實驗ノ結果ニ基キ多年研究中ナリシ新體操法ヲ細目ニ編制シ又高等小學校理科ニ於テ女兒ニ家事ノ大要ヲ授ケンカ爲ニ其ノ細目ヲ編制セリ訓練上ニ於テハ體操教授ノ改良及體操器械ノ増設ト相俟ツテ戶外運動ヲ獎勵セルニヨリ益々兒童身體ノ發育ヲ助ケタルヲ見ル又曩ニ制定セル訓練要目及訓練實施案ハ實行ノ結果其ノ適當ナルヲ認メタリ職員ノ共同研究ハ前學年ニ次キテ各科教授法中算術教授法ノ研究ヲ完了スルニ至レリ

第四 附屬東京教育博物館

陳列場及倉庫ノ改築圖書閱覽所ノ擴張ハ本館カ教育博物館トシテ任務ヲ果ス上ニ最モ急務

トスル所ナルニ拘ラス未タ之ヲ實行スルニ至ラサレハ深ク遺憾トスル所ナリ本年度ニ於ケル列品圖書ノ増加數ハ三千九百七點ナリ、(内陳列品百四十一點圖書三百五點ナリ)

入場者總數ハ二萬九千二百五十六名ニシテ内列品使用者二千三百六十七名圖書閱覽者八千三百七十七名特別室ノ觀覽者五千六百九十三名ニシテ教育關係者ノ來觀スルモノ漸ク其數ヲ増加セルヲ見ル

本年度中列品圖書ノ館外貸出ヲナシタルハ一萬百三十一點ナリ貸出品ノ重ナルモノハ海外諸學校生徒成績品及ヒ寫真ノ類ニシテ貸出箇所六十一箇所ソノ多クハ地方ニ開催セル教育品展覽會ナリ

終ニ臨ミ更ニ一事ノ報告セサルヘカラサルモノアリ即チ昨年十月三十日ニ舉行セル當校創立四十年記念式是ナリ當日特ニ

天皇陛下ノ御名代トシテ 皇太子殿下ノ臺臨ヲ辱ウシタルハ實ニ當校ノ光榮トシテ永ク遺ル、能ハサル所ナリ殊ニ當日ノ式場タルコノ講堂ニ於テ殿下手ツカラ普通教育振興ニ關スル御沙汰書ヲ文部大臣ニ傳ヘサセラレタルニ至リテハ局ニ當ルモノノ感激措ク能ハサル所ニシテ當校ノ責任亦益々其重キヲ加ヘタルヲ感セスンハアラス當校ノ職員生徒一同ハ深ク聖旨ノ存スル所ヲ奉體シ國家カ本校ニ俟ツ所以ノ者ヲ自覺シ夙夜勉勵シテ其ノ重任ヲ辱シ

メサランコトヲ期セリ、隨案本邦ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
一、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
五、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
六、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
七、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
八、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
九、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十一、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十二、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十三、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十四、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十五、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十六、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十七、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十八、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
十九、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十一、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十二、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十三、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十四、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十五、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十六、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十七、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十八、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
二十九、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十一、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十二、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十三、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十四、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十五、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十六、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十七、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十八、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
三十九、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十一、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十二、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十三、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十四、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十五、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十六、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十七、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十八、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
四十九、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、
五十、當世ノ教育ノ進歩ハ漸ク自費ノ用事増加シ、其ノ爲メニ、

第三 東京高等師範學校豫科入學志望者便覽

第一 目的、學科、修業年限及學年

- (一) 本校ハ師範學校、中學校、高等女學校ノ學校長及ヒ教員タルヘキ者ヲ養成シ兼ネテ普通教育ノ方法ヲ研究スルヲ以テ目的トス
- (二) 學科ヲ分テ豫科、本科、專攻科、研究科トシ別ニ專修科ヲ置ク
- (三) 修業年限ハ豫科一箇年、本科三箇年、專攻科二箇年、研究科一箇年乃至二箇年トシ專修科ノ修業年限ハ學科ニ依リテ相違アレトモ概ネ三箇年乃至四箇年ナリ
- (四) 豫科ノ科目ハ修身、國語、漢文、英語、數學、論理、圖畫、音樂、體操トス但シ一部ノ生徒ニハ圖畫音樂ノ一科目又ハ二科目ヲ缺キ其每週教授時數ヲ他ノ學科目ノ每週教授時數ニ加フルコトヲ得
- (五) 本科ヲ分テ國語漢文部、英語部、地理歴史部、數物化學部、博物學部ノ五部トス
國語漢文部ノ科目ハ修身、心理學及教育學、國語、漢文、英語、歴史、哲學、言語學、體操トス但シ隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フ
英語部ノ科目ハ修身、心理學及教育學、國語及漢文、英語、歴史、哲學、言語學、體操

附錄 第三 東京高等師範學校豫科入學志望者便覽 第一目的、學科、修業年限及學年 八三ノ一

トス但シ隨意科目トシテ獨語又ハ佛語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フ

地理歴史部ノ科目ハ修身、心理學及教育學、地理、歴史、法制經濟、國語及漢文、英語、體操トス但シ隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フ

數物化學部ノ科目ハ修身、心理學及教育學、數學、物理學、化學、天文氣象、英語、圖畫及手工、體操トス但シ隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フ

博物學部ノ科目ハ修身、心理學及教育學、植物學、動物學、生理學及衛生、礦物學及地質學、農學、英語、圖畫、體操トス但シ隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フ

(六) 專攻科ハ本校及ヒ廣島高等師範學校ノ卒業者又ハ内外國ニ於ケル官公私立ノ高等ナル學校ノ卒業者若ハ多年教職ニ從事シ相當ノ學識經驗アル者ノ中ヨリ選擇シテ入學セシメ一層精深ナル學業ヲ修メシムルタメニ設置セルモノナリ其學部ノ種類募集人員等ハ生徒募集ノ都度之ヲ定ム

(七) 研究科ノ科目ハ本科各部ニ置ク所ノ科目トシ教授ノ指導ニヨリ所選ノ學科ヲ研究セシム

(八) 專修科ハ師範學校、中學校、高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲メ時ノ必要ニ應ジテ設置スルモノニシテ其ノ出願手續等ハ大凡豫科入學ノ手續ニ同シ更ニ詳細ナル事項ハ募集ノ

都度之ヲ指示ス

(九) 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二 入退學及學資等

- (一) 豫科生徒ハ師範學校又ハ官公立中學校及ヒ文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認めタル私立中學校ヲ卒業シタル者ヨリ當該學校長之ヲ薦舉シ其ノ中ニ就キ試験ノ上選抜スルモノトス但シ毎年七月上旬ニ於テ相當ノ資格アル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトアルヘシ
- (二) 豫科入學試験ノ科目ハ試問、國語、漢文、英語、數學、地理、歷史、理科トス
- (三) 入學試験ハ師範學校又ハ官公立中學校及ヒ徵兵令認定ノ私立中學校卒業生ハ本校及ヒ地方廳ニ於テ試験シ右卒業生ニアラサルモノハ本校ノミニ於テ試験スルヲ通例トス
- (四) 入學志願者ニシテ入學試験ヲ受ケントスル者ハ受験料金三圓ヲ納ムヘシ但シ既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス
- (五) 學資ハ給費甲(月額七圓)、同乙(月額四圓)及ヒ私費ノ三種トス依テ之ヲ希望ノ順序ニ依リテ願書又ハ薦舉願書ニ記載スヘシ例ヘハ第一希望甲、第二希望乙、第三希望私費(又ハ私費ハ希望セス)ト認ムルカ如シ
- (六) 入學後學資別ノ變更并ニ志望學部ノ變更ハ之ヲ許サス

- (七) 兵役未了ノ者ハ本校在學中徵集ヲ猶豫セラルルモ卒業ノ上ハ師範學校出身者ニシテ師範學校若ハ小學校ノ訓導ニ就職スル場合ノ外兵役ニ徵集セラルルニ依リ在學中又ハ卒業後一年志願兵ニ就ク覺悟ヲ有スルヲ要ス
- (八) 生徒ハ給費生私費生トモ總テ寄宿舎ニ入ラシム
- (九) 私費生徒ハ本校所定ノ制服、食費、寄宿舎費、學用品費其他諸雜費トシテ年額約貳百圓ヲ要ス但シ學部ノ種類及ヒ學年ノ如何ニ依リ多少ノ差違アリ給費生徒ノ自辨スヘキ費額ハ前項ノ金額ヨリ各自支給ヲ受クル額ヲ減シタル殘額トス
- (十) 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ退學ヲ命ス
- 豫科生徒ニシテ學年試験ニ落第シタル者亦前項ニ同シ
- (十一) 生徒在學中自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者又ハ放校ニ處セラレタル者及ヒ卒業ノ後正當ノ事由ナクシテ服務ノ義務ヲ盡ササル者ハ支給セラレタル學資及ヒ授業費ヲ償還スヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

第三 入學試驗準備心得

當校生徒ハ通例一定ノ資格ヲ有スル者ニ就キテ試驗ヲ施シ選拔スルモノナレトモ各自從前ノ修業區々其ノ途ヲ異ニスルニヨリ本校ノ期望ニ合セサル者多シ仍テ茲ニ入學試驗ノ科目及ヒ程度ヲ定メ以テ入學志望者修業ノ指針トナス豫科入學試驗ノ科目ハ試問、國語、漢文、英語、數學、地理、歴史、理科トス

試問ハ平素ニ於ケル思想ノ傾向及ヒ精粗ヲ試ムルモノトス

國語ハ文法、解釋及作文ヲ含ミ就中文法ハ其ノ全體ニ通シ應用ヲ能クスルヲ要シ解釋ハ普通文、現代文、近世文、近古文ニ就キテ簡明ニ其ノ意味ヲ說述シ得ルコトヲ要シ作文ハ文字、熟語、語法等ニ誤謬ナク迅速正確ニ作り得ルヲ要ス

漢文ハ平易醇正ナル文章（論語、孟子、史記列傳、文章軌範ノ程度）ニ就キテ字義訓詁ヲ明ニシ其ノ意義ヲ簡明ニ解釋シ得ルコトヲ要ス

英語ハ普通ノ文章ヲ正確ニ音讀シ明瞭ニ解釋シ且ツ文法ノ大要ニ通シ平易ナル文ヲ綴リ得ルコトヲ要ス

歴史ハ日本歴史、外國歴史ヲ含ミ就中日本歴史ハ最モ詳密ナルヲ要ス而シテ時處ノ觀念

ハ正確ナルヘク隨ヒテ各時代ノ範圍及ヒ特異ノ諸點ヲ記憶スルヲ要シ又政治、文學、宗教、技藝ヲ論セス凡テ顯著ナル人物ノ事蹟ヲ詳ニスルコトヲ要ス

地理ハ日本地理、外國地理、自然地理及ヒ人文地理ヲ含ミ就中日本地理ハ特ニ詳密ナルヲ要シ又外國地理ハ本邦ト親密ナル關係アルモノニ重キヲ置クヘシ

數學ハ算術、代數、幾何ヲ含ミ就中算術、代數ニ就キテハ算法ノ理由ヲ了解スルト共ニ計算ニ熟達シ且ツ日常問題ノ解法ニ於ケル其ノ適用ヲ能クスルコトヲ要シ幾何ニ就キテハ平面及ヒ立體幾何中ノ重要ナル定理ヲ暗記シ其ノ應用ヲ能クシ且ツ簡易ナル面積及ヒ體積ヲ算定シ得ルコトヲ要ス

理科ハ物理、化學、動物、植物、礦物ヲ含ミ就中物理、化學ニ就キテハ正確ニ其ノ學理ヲ會得シ且ツ近易ナル應用問題ノ解答ヲ能クシ殊ニ化學ニ就キテハ無機物ハ勿論普通ニシテ簡易ナル有機物ニ關スル知識ヲ有スルコトヲ要ス又動物、植物、礦物ニ就キテハ一般ノ事實ヲ正確ニ會得スルハ勿論普通ノ種類ニツキテ實地ノ知識ヲ有スルコトヲ要ス

前記諸科目ニ於テ特ニ其ノ程度ヲ明示セサルモノハ凡テ中學校卒業ノ程度ニ準ス

第四 入學願書履歷書及ヒ身體檢查書書式等

(一) 書式

●入學願書(用美濃紙) (薦舉ニ依ラサルモノ)

私儀師範學校中學校高等女學校教員志望ニ有之候ニ付學力御試驗ノ上御校(何々科生トシ) 入學仕候儀御許可相成リ度別紙履歷書、身體檢查書、學業成績書(師範學校中學校卒業生ニ限リヌ) 相添へ此段奉願候也

年 月 日

何道何郡何町村大字何番地或ハ何某方同居(寄留者ハ本籍寄留地ヲ併記スヘシ)

戶主或ハ何某何男兄弟等

何道府縣(華族士族平民)

(第一志望本科何部ト朱記スヘシ)

(第二志望本科何部ト朱記スヘシ)

(學資ノ希望別ヲ朱記スベシ)

東京高等師範學校長何某殿

何 某

年 月 日生

●履 歷 書(用美濃紙)

何道(以下入學願書) 何府縣(書式ニ同シ)

(假名ヲ付スヘシ)

何 某

年 月 日生

一卒業證書免許狀

何年何月何日官公私立何學校(小學校ヲ除ク)ニ於テ何學科卒業證書ヲ受ク(證書寫ヲ添フヘシ)

何年何月何日何所ニ於テ何免許狀ヲ受ク(免許狀寫ヲ添フヘシ)

一學業

何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何所何某ニ就キ何學科修業何年何月何日官公私立何學校(小學校ヲ除ク)ニ入り何學科修業何年何月何日卒業或ハ何々ニ付半途退學或ハ何箇年ノ課程ヲ卒フ

一兵役

何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何師團何旅團何兵何聯隊ニ入り陸軍現役ニ服セリ或ハ何年何月何日何處ニ於テ徵兵検査ヲ受ケ何々ニ付國民軍ニ編入セラル等

附錄 第三

東京高等師範學校豫科入學志望者便覽

第四 入學願書履歷書及ヒ身體檢查書書式等

一職業

何年何月何日何道府縣ニ於テ訓導拜命何道府縣何郡何市町村何學校在勤何年何月何日依願免官或ハ現今在勤等

何年何月何日何官職拜命或ハ何業ニ從事何年何月何日依願免官或ハ廢業或ハ現今在職從事等

一賞罰

何年何月何日何處ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ク或ハ何罰ヲ受ク等
右之通相違無之候也

年 月 日

右 何

某印

前書本人ハ嘗テ刑罪ニ處セラレタルコトナク且ツ本書中兵役ニ關スル事項相違無之ニ付證明候也

年 月 日

何道府縣何市町村區長

何

某印

(此履歷書ニ戸籍吏ノ證明シタル戸籍全寫ヲ添付スルヲ要ス)

●身體検査書(用美濃紙)

何道府縣華族士族平民

何

某

年 月 日生

一體格

一身長

一體重

一胸圍 盈虛ノ差

一中心視力

色盲

眼病

一聽力

耳疾

一呼吸器

一神經系

附錄 第三

東京高等師範學校豫科入學志望者便覽
第四 入學願書履歷書及ヒ身體検査書式等

- 一 皮膚
 - 一言語
 - 一 既往現在ノ疾病又ハ畸形
 - 一 四肢運動障害ノ有無
- 右検査候處相違無之候也
- 年 月 日 検査

住 所

何學校醫(學校醫ノナキ地方ニアリテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若クハ第二條ニ該當スル資格アル醫師)

學位若クハ資格

何

某印

(二) 検査書記載方

- (イ) 検査ノ表記及ヒ身長體重胸圍聽力等ノ検査方法ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程ニ準スヘシ
- (ロ) 體格ノ强健ト稱スルモノハ發育營養共ニ佳良ニシテ其ノ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商〇、三二以上且ツ無病健全ノ者ヲ指ス
- 中等ト稱スルハ發育營養共ニ通常ニシテ其ノ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商

- 〇、二六以上且ツ無病ノ者ヲ指ス
- 薄弱ト稱スルハ發育營養共ニ不充分ナルカ或ハ身長(センチメートル)ヲ以テ體重(キログラム)ヲ除シタル商
- 〇、二六未満ナルカ或ハ強度ノ脊柱彎曲、扁平胸、狭小胸若ハ全身ノ健康ニ直接ノ關係アル慢性ノ疾患アル者ヲ指ス
- (ハ) 中心視力ハスネルレン氏ノ試視力表ニ依リテ其ノ記載方ハ下記スヘシ但シ遠視若ハ近視ニアリテハ二十尺ノ距離ニ於テ二十號ヲ明視シ得ル眼鏡ノ度ヲ記載スヘシ
- 色盲ハ其ノ有無若シ其ノ患アル者ハ何色盲ト記載スヘシ
- (ニ) 呼吸器ハ理學的診斷ノ成績ヲ記載スヘシ
- (ホ) 神経系ハ中樞若ハ末梢神經ニ障害ノ有無ヲ記載スヘシ
- (ヘ) 皮膚ハ主トシテ傳染性皮膚病ノ有無ヲ記載スヘシ若シ顔面等ニ現ハレタル皮膚病アルトキハ之ヲモ記載スヘシ
- (ト) 言語ハ明朗、吃、嗄聲等ヲ記載スヘシ
- (チ) 既往現在ノ疾病又ハ畸形ハ腦病、肺病、肋膜炎、脚氣等ノ曾患、肺病、心臟病、胃腸病等ノ現在及ヒ顯著ナル畸形ヲ記載スヘシ
- (リ) 四肢運動障害ノ有無ニ於テハ體操遊戲等ヲ行フニ當リ四肢ノ運動ニ障害アルヤ否ヤヲ

第四 東京高等師範學校々々友會

(明治四十年十月二日
社團法人設立認可)

一 東京高等師範學校校友會定款

第一章 目的

第一條 本會ハ社團法人トナシ會員ノ精神ヲ修養シ身體ヲ鍛練シ以テ校風ヲ振作シ併セテ會員相互ノ親睦ヲ厚クスルヲ以テ目的トス

第二章 名稱

第二條 本會ハ東京高等師範學校校友會ト稱ス

第三章 事務所

第三條 本會ノ主タル事務所ハ之ヲ東京市小石川區大塚窪町貳拾參番地ニ設ク

第四章 會員資格及義務

第四條 本會ノ會員タルモノハ左ノ資格ノ一ニ該當スルモノタルコトヲ要ス

- 一 東京高等師範學校生徒
- 二 現在ノ東京高等師範學校職員
- 三 東京高等師範學校卒業生 舊高等師範學校卒業生及舊東京師範學校卒業生

四 前任ノ東京高等師範學校職員 舊高等師範學校職員及舊東京師範學校職員

第五條 前條ノ資格ノ一ニ該當スルモノニシテ本會會員タラントスルトキハ理事ニ申出テ其承認ヲ經ルヲ要ス

第六條 第四條ノ資格ニ該當セザルモノト雖モ本會ニ對シテ功勞アルモノハ理事ニ於テ特ニ之ヲ會員ニ推薦スルコトヲ得

第七條 會員ハ理事ノ承認ヲ經テ退會スルコトヲ得

第八條 會員ニシテ本會ノ體面ヲ汚ス行狀アルモノハ理事ニ於テ之ヲ除名スルコトヲ得

第九條 會員タルモノハ總會ニ於テ定ムル所ノ規定ニ基キ所定ノ費用ヲ釀出スル義務ヲ有ス

第五章 理事

第十條 本會ニ理事一名ヲ置ク

第十一條 理事ニハ現在ノ東京高等師範學校長ヲ推薦シテ之ニ充ツ

第十二條 理事ハ會務ノ分掌ヲ定メ其主務者ヲ選任スルコトヲ得

第六章 總會

第十三條 定時總會ハ毎年一回之ヲ開ク

第十四條 總會招集ノ通知ハ東京高等師範學校內揭示場校友會誌及茗溪會發行ノ雜誌教育ニ公告シテ之ヲ行フ

但シ理事ニ於テ書面ヲ發シ又ハ新聞紙上ニ公告シテ之ヲ爲スコトヲ得

第十五條 總會ニ於ケル表決ハ出席會員ニ限ル書面又ハ代理ヲ以テ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 總會ノ決議ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

但シ定款變更ニ關スル決議ハ在京會員ノ半數以上出席シ其出席員ノ三分ノ二以上同意アルヲ要ス

第七章 資産

第十七條 本會ノ資産ハ會員ノ出資及會員并ニ會員ノ外ノ寄附ヲ以テ成ル

第十八條 本會ノ資産ヲ分チテ通常財産及基本財産ノ二種トス

第十九條 本會ノ基本金ヲ以テ基本財産トナス

第二十條 基本金ハ會員ガ基本金トシテ釀出スル金額會員并ニ會員以外ノ特定寄附金及本會々計剩餘金ノ蓄積ヲ以テ成ル

第二十一條 基本財産ノ元本ハ何等ノ場合ヲ問ハズ之ヲ消費スルコトヲ得ス

第二十二條 基本金ハ有價證券又ハ現金ヲ以テ保管シ其利殖ノ方法ハ總會ノ決議ヲ以テ別

ニ之ヲ定ム

第八章 補則

第二十三條 本會ハ社團法人ノ登記ヲ申請スル際會員ノ權義等ニ關シテ從來實施セル別紙ノ細則ハ總會ノ決議ヲ經タルモノト認定ス

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including numbers like 第十八條, 第十九條, etc.)

一一 東京高等師範學校校友會細則

第一章 目的

第一條 東京高等師範學校校友會ノ目的ハ會員ノ精神ヲ修養シ身體ヲ鍛練シ以テ校風ヲ振作シ併セテ相互ノ親睦ヲ厚ウスルニアリ

第二章 會員

第二條 本會々員ハ左ノ四種ヨリナル

- 名譽會員
- 贊助會員
- 特別會員
- 通常會員

第三條 特ニ本會ニ功勞アル人ハ名譽會員トス

第四條 本校現在職員ヲ以テ贊助會員トナス

第五條 本校前職員及本校卒業生ヲ以テ特別會員トナス

第六條 本校生徒ヲ以テ通常會員トナス

第七條 通常會員ハ評議會ニ於テ別ニ定ムル所ノ會費ヲ納ムルモノトス
 第八條 通常會員ハ別ニ定ムル所ノ規定ニヨリ校友會基本金ヲ積立ツルモノトス
 第九條 通常會員ハ入會ノ際入會金壹圓五拾錢ヲ納ムルモノトス
 第十條 贊助會員ハ毎年贊助會員ノ會議ニテ定ムル所ノ割合ニヨリ本會通常經費ヲ寄附スルモノトス

第三章 會務分掌

第十一條 本會ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ十一部ヲ置ク

- 談話部
- 雜誌部
- 柔道部
- 劍道部
- 弓道部
- 徒歩部
- 庭球部
- 蹴球部

- 野球部
- 短艇部
- 游泳部

第十二條 談話部ハ會員ノ演說討論談話會ヲ開キ及ヒ校外ノ名士ヲ招聘シテ演說講話ヲ乞フコトヲ掌ル

第十三條 雜誌部ハ本會會誌ヲ發行シテ會務ヲ報告シ會員ノ論說文藝消息等ヲ公ニスルコトヲ掌ル

第十四條 柔道以下ノ九部ハ各其名稱ニ應スル修練ヲ爲スモノトス

第四章 役員

第十五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名
 - 副會長 一名
 - 幹事長 一名
 - 部長 十一名
- 但シ一名ニテ二部以上ヲ兼ヌルコトヲ得

會計審査員 四名

評議員 若干名

幹事 四名

主事 各部二名

委員 各部若干名

但シ時宜ニヨリ臨時役員ヲ設クルコトアルヘシ

第五章 役員ノ選任

第十六條 會長ニハ本校校長ヲ推薦ス

第十七條 副會長幹事長及ヒ部長ハ贊助會員中ヨリ會長之ヲ依囑ス

第十八條 會計審査員ハ評議員中ヨリ會長之ヲ依囑ス

第十九條 評議員ハ其十名ヲ贊助會員中ヨリ會長之ヲ依囑シ其他ハ各學級ヨリ一名ツ、選出ス

但シ研究科外國學生ヨリハ各學年ヨリ一名ツ、トス

評議員ハ幹事主事若シクハ委員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

贊助會員ノ評議員ハ部長ヲ兼ヌルコトヲ得

第二十條 幹事ハ通常會員ノ中ヨリ選出スルモノトス

第二十一條 各部主事ハ當該部委員中ヨリ互選スルモノトス

第二十二條 各部委員ハ各年級ヨリ一名宛選出スルモノトス

但シ雜誌部庭球部短艇部及ヒ游泳部ニ於テハ本科各年級ヨリ二名專修科各學級ヨリ一名トス

第二十三條 臨時役員ハ贊助會員及ヒ特別會員中ヨリ會長之ヲ依囑シ若クハ通常會員中ヨリ幹事長之ヲ依囑ス

第六章 役員權限

第二十四條 會長ハ本會會務ヲ總理ス

第二十五條 副會長ハ會長ヲ補佐シ臨時必要ノ場合ニハ會長ニ代ツテ會務ヲ總理ス

第二十六條 幹事長ハ庶務及ヒ會計ノ事務ヲ統理ス

第二十七條 部長ハ當該部ノ事務ヲ統理ス

第二十八條 會計審査員ハ會計事務ヲ審査スルモノトス

第二十九條 會長副會長及ヒ評議員ハ評議員會ヲ組織シ第三十四條ニ定ムル事項ヲ議ス

第三十條 幹事ハ庶務會計ノ事務ヲ處理ス

第三十一條 主事及ヒ委員ハ當該部ノ事務ヲ處理ス

第三十二條 幹事長部長幹事及ヒ主事ハ主事會ヲ組織シ第三十七條ニ定ムル事項ヲ議ス

第七章 役員ノ任期

第三十三條 副會長幹事長部長會計審查員評議員幹事主事及ヒ委員ノ任期ヲ一ケ年トシ毎年十二月中ニ改選又ハ依囑ス

但シ翌年度豫算ノ決定卒業生送別會及ヒ第四十四條ニ關スル事項ヲ除クノ外ハ翌年三月ニ至ル迄舊役員各所定ノ任務ニ從事スルモノトス

役員ノ改選期ハ評議員會ノ決議ニヨリ會長ノ許可ヲ經テ一箇月以内變更スルコトヲ得

第八章 評議員會議

第三十四條 評議員會ノ決議スヘキ事項左ノ如シ

- 一 豫算ノ決定
 - 一 本會豫算外支出ニ關スル件
 - 一 本會規則ノ改正
 - 一 其他特ニ重要ナル事項
- 但シ本條第一項豫算ノ決定ハ前以テ評議員ノ互選セル委員ノ審查ヲ經ルヲ要ス

第三十五條 評議員會ハ會長ヲ以テ議長トス

第三十六條 評議員會ノ議決ハ會長ノ許可ヲ經テ之ヲ執行スルモノトス

第九章 主事會議

第三十七條 主事會ノ議スヘキ事項左ノ如シ

- 一 豫算ノ編成
 - 一 校友會大會、陸上大運動會、水上大運動會及ヒ卒業生送別會ニ關スル事項
 - 一 第四十四條ニ關スル事項
 - 一 本會會務ニシテ各部ニ通シテ關係スル事項
- 第三十八條 主事會ハ部長ノ一名ヲ以テ議長トス

第十章 會計

第三十九條 本會ハ會費寄附金及ヒ基本金ノ利子ヲ以テ歳入トシ一切ノ支出ヲ以テ歳出トス

第四十條 普通歳入ハ豫算會議ニ於テ之ヲ定ム

第四十一條 本會基本金ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條 豫算外臨時支出ヲ要スルトキハ評議員會ノ決議ヲ要ス

第十一章 雜則

- 第四十三條 本會各部ノ細則ハ各部ニ於テ之ヲ定メ主事會ノ承認ヲ經ヘシ
- 第四十四條 本會ニ功勞アルモノ及ヒ本會各部ニ於テ技能特ニ拔群ノモノニ對シテハ相當ノ方法ニヨリ之ヲ表彰スルコトアルヘシ
- 第四十五條 本會ノ贊助會員ニシテ本校ヲ去ルモノニハ紀念品ヲ贈呈スルコトアルヘシ
- 第四十六條 本會會員ニシテ死去シタルトキニハ吊詞或ハ吊慰金ヲ贈ルモノトス
- 第四十七條 本會ノ目的ヲ贊成シ寄附ヲ申込ム者アルトキハ會長ノ許可ヲ受ケ之ヲ受理スルコトアルヘシ
- 第四十八條 本會規則ヲ改正シ又ハ修正セントスルトキハ本會役員十名以上又ハ會員三十名以上ノ同意ニヨリ評議員會ニ提出スルコトヲ得

三 校友會基本金規定

- 第一條 本會ハ其基礎ヲ鞏固ニシ事業ノ發達ヲ圖ランカ爲ニ基本金ヲ蓄積ス
- 第二條 基本金ハ本會通常會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 第三條 基本金原資ハ何等ノ事情アルモ之ヲ費消スルコトヲ得ス
- 第四條 基本金ヨリ生スル利子ハ本會通常會計ニ編入ス
- 第五條 基本金ハ有價證券又ハ現金ヲ以テ保管シ其利殖ノ方法ハ會長ニ於テ評議員會ニ諮詢シ之ヲ定ム
- 第六條 基本金ハ通常會員ノ醵金贊助員並ニ特別會員ノ寄附金及ヒ本會會計剩餘金ヲ積立ツルモノトス
- 第七條 通常會員ハ基本金トシテ毎年九月中旬金一圓ヲ醵出スルモノトス
- 第八條 會員以外ノ者ヨリ基本金ノ中へ寄附ヲ申込ムトキハ會長ノ承認ヲ經テ之ヲ受納スルコトアルヘシ
- 第九條 基本金ニ關スル事務ハ本會會計之ニ任ス
- 第十條 基本金ニ關スル公告ハ校友會會誌ヲ以テス

第十一條 本規定ハ評議員ニ於テ出席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得更ニ贊助會員及通常會員ノ總會ヲ開キ其出席者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ會長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

前項評議員會及ヒ總會ハ少クモ一週間以前ニ開會ヲ豫告スルヲ要ス

第十二條 本規定ハ明治三十六年度ヨリ實施ス

三 對立會及本會規定

四 校友會入會金規定

第一條 本會ノ基礎ヲ鞏固ニシ其發達ヲ圖ランタメ入會金ヲ蓄積ス

第二條 入會金ハ本會通常會計ト區別シ特別會計法ヲ設置ス

第三條 入會金ハ有價證券又ハ現金ヲ以テ保管シ其利殖ノ方法ハ會長會計審査委員ニ諮詢シ之ヲ定ム

第四條 入會金原資及其利子ノ支出ハ評議員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

第五條 此規定ハ明治三十八年度ヨリ施行ス

五 對立會及本會規定

五 校友會特別資金規定

- 第一條 短艇(若クハ之ニ代ルモノ)ノ建造並ニ游泳部ノ擴張ノ爲メ各特別資金ヲ設ク
- 第二條 特別資金ハ本會通常會計ト區別シ特別會計ヲ設置ス
- 第三條 特別資金ハ毎年通常會計中ヨリ支出蓄積スルコト、シ其ノ額ハ豫算會議ニ於テ決定スルモノトス
- 第四條 特別資金ハ有價證券又ハ現金ヲ以テ保管ス
- 第五條 特別資金ヨリ生スル利子ハ該當金ニ繰込ムモノトス
- 第六條 特別資金ノ支出ハ評議員會ノ決議ヲ經ルヲ要ス
- 第七條 本規程ハ評議員會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス
- 第八條 本規程ハ明治四十四年度ヨリ實施ス

六 役員選舉內規

- 第一條 本會細則第二十條ニ於ケル幹事選舉ハ次ノ規定ニヨル
本科三年二人、本科二年一人、專修科最上級一人トスルコト
- 第二條 本會細則第二十一條ニ於ケル各部主事ノ選舉ハ次ノ規定ニヨル
本科三年若クハ專修科最上級ヨリ一人、本科二年若クハ專修科最上級ニ亞ク學年ヨリ一人ヲ當該部委員中ヨリ互選スルコト
但特別ノ事情アル時ハ其部ニ限り此例ニヨラサルコトヲ得其場合ハ事由ヲ具シテ主事會議ノ承認ヲ經ルヲ要ス
- 第三條 本會細則第廿二條各部委員選出ニ關スル規定中本科選出委員ニ限り雜誌部ハ文科在學ノモノタルヘク庭球部短艇部游泳部ハ文科在學、理科在學各一名ツ、トス

本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ
本會職員ハ其ノ職務ニ依リテ本會ノ利益ヲ増進スルニ努ムルコトヲ以テシテ其ノ職務ヲ行フニ當リテ其ノ私利私欲ヲ求ムルコトヲ許サズ

六 附則

第五 弔慰會

弔慰規約

(明治四十五年三月改定)

第一條 職員ハ弔慰ノ費用ニ充ツル爲メ毎年二回(四、七ノ月)各自俸給ノ百分ノ一ヲ醵金スルモノトス但シ休職又ハ無報酬ノ職員及備外國人ハ此ノ限リニアラス

第二條 醵金ヲ支出スヘキ場合及其ノ金額標準ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一、本人死亡 金貳拾圓
- 一、父、母死亡、配偶者死亡、本人病氣(重症又ハニヶ月以上ニ互リタルトキ) 金拾圓
- 一、子(同戸籍内ノモノニ限ル)死亡、本校生徒死亡、校僕死亡 金五圓
- 一、現住宅災厄 金拾圓以内
- 一、校僕災厄 金五圓以内

第三條 前條ノ弔慰金ハ場合ニ依リ當該金額ノ範圍内ニ於テ相當ノ物品ヲ贈ルコトアルヘシ

第四條 醵金ハ之ヲ確實ナル銀行ニ預金トシテ保管スルモノトス但シ五拾圓以内ノ金額ヲ支出備金トシテ現金ニテ保管スルコトヲ得

第五條 釀金ニ不足ヲ生シタルトキハ臨時徴收スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ期日及金額ヲ豫メ總員ニ通知スルモノトス

第六條 本校幹事、附屬學校主事、教育博物館主事、生徒監及本校教官二人並庶務會計兩課長ヲ世話人トナシ本規約ノ施行ニ關スル一切ノ事務ヲ委囑スルモノトス

第七條 世話人ハ毎年四月ニ於テ前年度ニ於ケル收支ノ決算報告ヲナスモノトス

第八條 本規約ヲ改正スルニハ職員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

第九條 本規約ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行ス

第六 金曜會

金曜會例規

(明治三十六年六月設立)

- 一、本會ハ職員ノ親睦ヲ目的トス
- 二、本會ハ主トシテ教授助教講師ヲ以テ會員トス
- 三、本會ニ常任幹事一名當番幹事四名ヲ置キ當番幹事ハ前回幹事ノ指名ニ依リ輪番交代ス
- 四、本會ハ毎年約五六回幹事ニ於テ適宜ノ時機ヲ見計ラヒ開會ス
- 五、會員ハ會費トシテ毎月金參拾錢ヲ釀出ス
- 六、前項ノ金額ハ毎月之ヲ積立テ置キ開會ノ節費用ノ補助ニ充ツ

六、前記ノ事項ハ、本會ノ教育方針ニ基キ、各小學校ノ教育活動ニシテ、
 五、前記ノ事項ハ、本會ノ教育方針ニ基キ、各小學校ノ教育活動ニシテ、
 四、前記ノ事項ハ、本會ノ教育方針ニ基キ、各小學校ノ教育活動ニシテ、
 三、前記ノ事項ハ、本會ノ教育方針ニ基キ、各小學校ノ教育活動ニシテ、
 二、前記ノ事項ハ、本會ノ教育方針ニ基キ、各小學校ノ教育活動ニシテ、
 一、前記ノ事項ハ、本會ノ教育方針ニ基キ、各小學校ノ教育活動ニシテ、

日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日
日	日	日	日	日	日

名	圓	日	日	日	日	日
三、一一一名	一六、二七六圓	日曜日	祝日、大祭日	冬期休業 自十二月二十五日 至翌年一月五日	暑期休業 自七月三十一日 至八月三十一日	春期休業 自四月七 至四月二十一
	三、九一五圓		毎週月曜日			

訓練要目ノ實施
 訓練實施案ノ施行
 兒童ノ作業
 兒童ノ會合
 學級主任ノ誘掖指導
 儀式、課堂訓話等ノ施行
 家庭トノ協同



第七 東京高等師範學校概覽

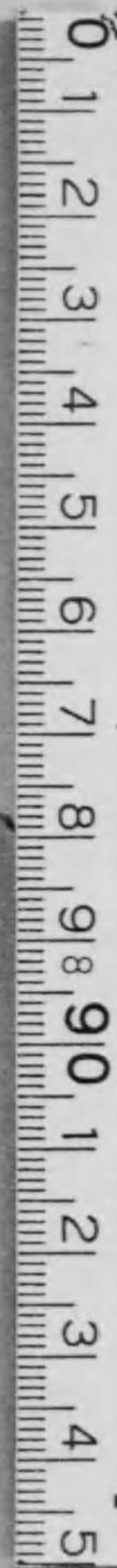
(明治四十五年五月一日)

各部		東京高等師範學校		東京高等師範學校附屬中學校		東京高等師範學校附屬小學校		東京教育博物館		
名	稱	創立	位置	面積	面積	面積	面積	面積	面積	
東京高等師範學校	東京高等師範學校	明治五年九月	東京市小石川區大塚窪町	二、四二二坪 (內二階三、四四坪)	同上	同上	同上	東京市本郷區湯島三丁目	四、一〇〇坪	
東京高等師範學校附屬中學校	東京高等師範學校附屬中學校	明治二十一年九月	同上	二、一七二坪 (內二階三、三六坪)	同上	同上	同上	同上	同上	
東京高等師範學校附屬小學校	東京高等師範學校附屬小學校	明治六年二月	同上	一、九七三坪 (內二階三、五九坪)	同上	同上	同上	同上	同上	
東京教育博物館	東京教育博物館	明治五年三月	東京市本郷區湯島三丁目	四、一〇〇坪	同上	同上	同上	同上	同上	
目的	師範學校中學校高等女學校ノ校長及 七教員タルヘキ者ヲ養成ス	一、中學校令ニ基ツキテ生徒ヲ 教育ス 二、中學校教育ノ方法ヲ研究ス 三、師範生徒ヲシテ實地授業ヲ 練習セシム	一、中學校令ニ基ツキテ児童ヲ 教育ス 二、小學校教育ノ方法ヲ研究ス 三、師範生徒ヲシテ實地授業ヲ 練習セシム	一、小學校令ニ基ツキテ児童ヲ 教育ス 二、小學校教育ノ方法ヲ研究ス 三、師範生徒ヲシテ實地授業ヲ 練習セシム	廣ク内外ノ教育品及ヒ教育圖書 ヲ蒐集陳列シテ教育ノ普及改進 ニ資ス	廣ク内外ノ教育品及ヒ教育圖書 ヲ蒐集陳列シテ教育ノ普及改進 ニ資ス	廣ク内外ノ教育品及ヒ教育圖書 ヲ蒐集陳列シテ教育ノ普及改進 ニ資ス	廣ク内外ノ教育品及ヒ教育圖書 ヲ蒐集陳列シテ教育ノ普及改進 ニ資ス	廣ク内外ノ教育品及ヒ教育圖書 ヲ蒐集陳列シテ教育ノ普及改進 ニ資ス	
校址	東京市小石川區大塚窪町	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
圖書	八九、五二八冊 (和漢書七、七、九三九 洋書一、一五、八九九 五〇、二一九點 標本 一、三、四、五、三 器具 二、一、七、五、四、二	六、九五三冊 (和漢書五、六、〇四六 洋書一、三、〇七六 標本 一、二、八、六 器具 二、二、九、二、〇、七	八、七〇九冊 (和漢書八、四、四八一 洋書一、二、六、八 標本 三、三、四、四、八 器具 三、八、四、九、八、五	九、五三一冊 (和漢書六、二、五、五六 洋書三、二、七、五 標本 一、〇、六、五、二 器具 七、六、三	同上	同上	同上	同上	同上	同上
職員	一三六名 校長 一 教員 一三二 事務員 二	三八名 校長 一 教員 三三 事務員 二	二七名 校長 一 教員 二六 事務員 二	七名 校長 一 事務員 六	同上	同上	同上	同上	同上	
來館兒童	七一名 豫科 一、二、五 本科 三、四、四 研究科 八〇 特別學生 三 外國學生 九四	三八二名 第一部 二四二 第二部 一九七 第三部 一八二	六二一名 第一部 二四二 第二部 一九七 第三部 一八二	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
學科	豫科(二年) 國語漢文部 英語部 地理歴史部 博物學部 物理化學部 數學部 文藝部 農學部 衛生學部 實業部 體育部 音樂部 美術部 工學部 理科 文科 師範科 研究科 英語部 英語部	中學科(五年)	第一部 尋常小學校 第二部 尋常小學校(三年) 第三部 尋常小學校(二年) 第四部 尋常小學校(一年) 第五部 尋常小學校(半年)	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
訓練	寄宿舎ニ於ケル訓育 學級主任ノ誘掖指導 儀式、講演會等ノ施行 校友會各部事務ノ練習及事業ノ實施	學年擔任ノ誘掖指導 儀式、學級會等ノ施行 訓練要目ノ實施 協働會各部事務ノ實施 家庭トノ協同	訓練要目ノ實施 訓練實施案ノ施行 兒童ノ作業 兒童ノ會合 學級主任ノ誘掖指導 儀式、講演會等ノ施行 家庭トノ協同	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
休業日	春期休業(自四月十一日) 夏期休業(自七月十一日) 冬期休業(自十二月二十五日) 祝日、大祭日	春期休業(自四月十一日) 夏期休業(自七月十一日) 冬期休業(自十二月二十五日) 祝日、大祭日	春期休業(自四月十一日) 夏期休業(自七月十一日) 冬期休業(自十二月二十五日) 祝日、大祭日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	
經費	一八六、一九三圓	一八、四四〇圓	一六、二七六圓	三、九一五圓	同上	同上	同上	同上	同上	
卒業生	三、一五五名 外二外國學生四九名	八一八名 外二聽講生一名	三一一名	同上	同上	同上	同上	同上	同上	



第八 東京高等師範學校圖書增加累年比較表(自明治三十四年度至明治四十四年度)

年度別	和漢洋書部		洋書部		計	
	部	冊	部	冊	部	冊
明治三十三年度末現在	一〇,四六三	六六,四七七	四,四〇七	六,六五一	一四,八七〇	七三,〇九八
明治三十四年度末現在	一〇,八三三	六七,六四五	四,七三八	七,三一九	一五,五七三	七四,九六四
明治三十五年度末現在	一一,四〇三	六九,三八三	五,二五五	八,〇四八	一六,六五七	七七,四三三
明治三十六年度末現在	一一,六九一	七〇,〇三三	五,五四一	八,四六五	一七,三三三	七八,四九七
明治三十七年度末現在	一二,〇九〇	七一,三三三	五,七九〇	八,九三三	一七,八八一	八〇,四四五
明治三十八年度末現在	一二,三〇六	七二,九四九	五,九九九	九,二四五	一八,三九五	八一,一九二
明治三十九年度末現在	一二,五四九	七三,七七九	六,一九三	九,七四四	一八,七四二	八二,五三三
明治四十年度末現在	一二,八八四	七三,三六三	六,五八四	一〇,五八八	一九,四六八	八三,九九二
明治四十一年度末現在	一三,二五六	七四,一七一	六,九二三	一一,〇五六	二〇,一七九	八五,三二七
明治四十二年度末現在	一三,六〇七	七四,八七六	七,二一九	一一,五五五	二〇,八二六	八六,四三二
明治四十三年度末現在	一四,〇四四	七六,三五五	七,五〇三	一二,三三八	二一,〇二七	八八,〇六二
明治四十四年度末現在	一四,八五七	七九,九五八	七八,五四	一二,〇一七	二二,七一一	九三,九七九



第九 東京高等師範學校經費累年比較表

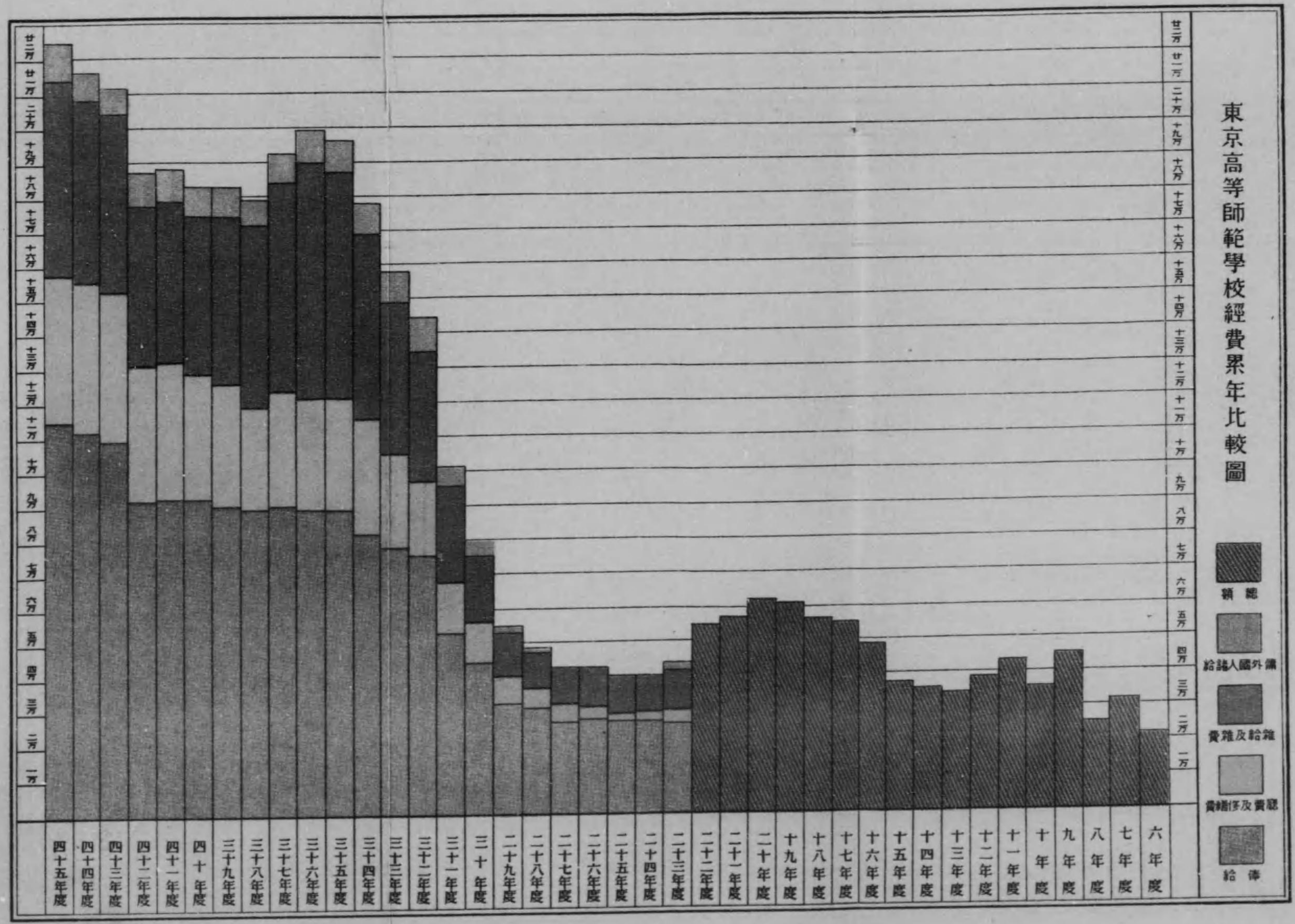
年 度	俸 給	廳費及修繕費	雜給及雜費	備外國人諸給	合 計
明治六年度					二〇、五三三
明治七年度					三〇、四〇二
明治八年度					二五、一五
明治九年度					四四、三三九
明治十年度					三五、九五七
明治十一年度					四三、一二六
明治十二年度					三八、八三〇
明治十三年度					三二、七六九
明治十四年度					三四、一三六
明治十五年度					三七、五六八
明治十六年度					四九、二五〇
明治十七年度					五六、一八七
明治十八年度					五七、七三四
明治十九年度					六一、八六二
明治二十年度					六二、六一二
明治二十一年度					五八、六九五
明治二十二年度					五五、四七九
明治二十三年度	二六、二五二	四、八一三	九、六四三	二、四〇〇	四三、一〇八
明治二十四年度	二七、四六八	三、六二九	九、三七一	〇	四〇、四六八
明治二十五年度	二七、六六四	三、一一〇	九、六六七	〇	四〇、四四一
明治二十六年度	二九、七二一	三、九五三	八、二一四	〇	四一、八八八
明治二十七年度	二八、九三三	四、七七四	八、一八九	〇	四一、八八六
明治二十八年度	二九、八九三	六、二一一	九、九一五	一、九二七	四七、九四六
明治二十九年度	三二、二七七	七、八四九	一二、四一六	二、四〇〇	五四、九四二
明治三十年度	四四、四三〇	一一、三八一	一七、五〇〇	五、五三六	七九、八四八
明治三十一年度	五一、〇四七	一六、〇六〇	二七、六七七	六、六〇〇	一〇一、三八四
明治三十二年度	七四、一〇四	二二、七〇七	三八、一〇五	九、〇〇〇	一四三、九一六
明治三十三年度	七七、四六四	二七、五四五	四三、一七八	九、一〇〇	一五七、二八七
明治三十四年度	八一、九〇五	三一、四五七	五四、五九七	八、九九〇	一七六、九四九
明治三十五年度	八七、四六九	三四、二二一	六四、四六〇	八、九七六	一九五、一二六
明治三十六年度	八七、五一三	三四、二八七	六六、九四一	九、三七六	一九八、一七
明治三十七年度	八八、四一四	三四、二六六	六〇、六一三	八、五七七	一九一、八七〇
明治三十八年度	八七、一〇四	三〇、九一八	五二、六二七	八、七一九	一七九、三六八
明治三十九年度	八八、五七五	三四、九六九	四九、二五九	九、八八九	一八二、六九二
明治四十年度	九一、一八一	三五、七六〇	四五、八六一	九、七〇〇	一八二、五〇二
明治四十一年度	九一、二六四	三九、九三八	四五、九七〇	八、六二四	一八六、七九六
明治四十二年度	九〇、四二五	四〇、五五五	四六、三二二	八、七〇〇	一八六、〇〇二
明治四十三年度	一〇七、七九五	四三、三九〇	五一、八一	八、七〇〇	二一一、六九六
明治四十四年度	一一〇、四二一	四五、七六三	五一、三七四	九、〇〇〇	二一六、五五八
明治四十五年度	一一四、一九〇	四四、八三七	五五、八二二	九、九七五	二二四、八二四

備考

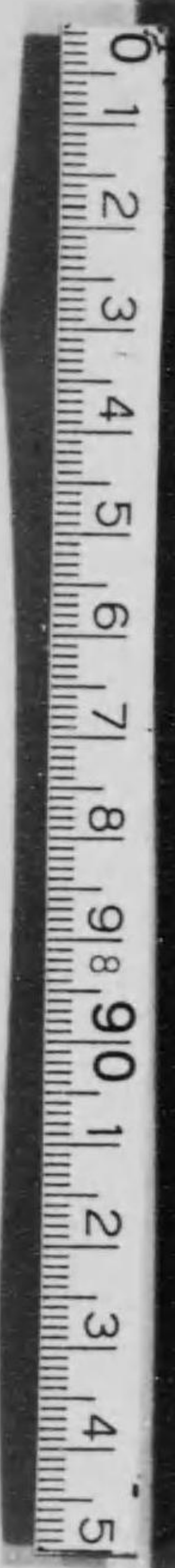
- 一、二十二年以前ノ經費内譯ハ明ラカナラサルニ付之ヲ省ク
- 一、本表ハ各年度ノ經常費決算額(四十四五年)ヲ掲ク
- 一、各科目中主ナル費途左ノ如シ
 - 俸 給 (教官、講師及事務官ノ俸給)
 - 廳 費 (圖書、機械、標本、器具、消耗品ノ費額)
 - 雜給及雜費 (旅費、學費、修學旅行費)



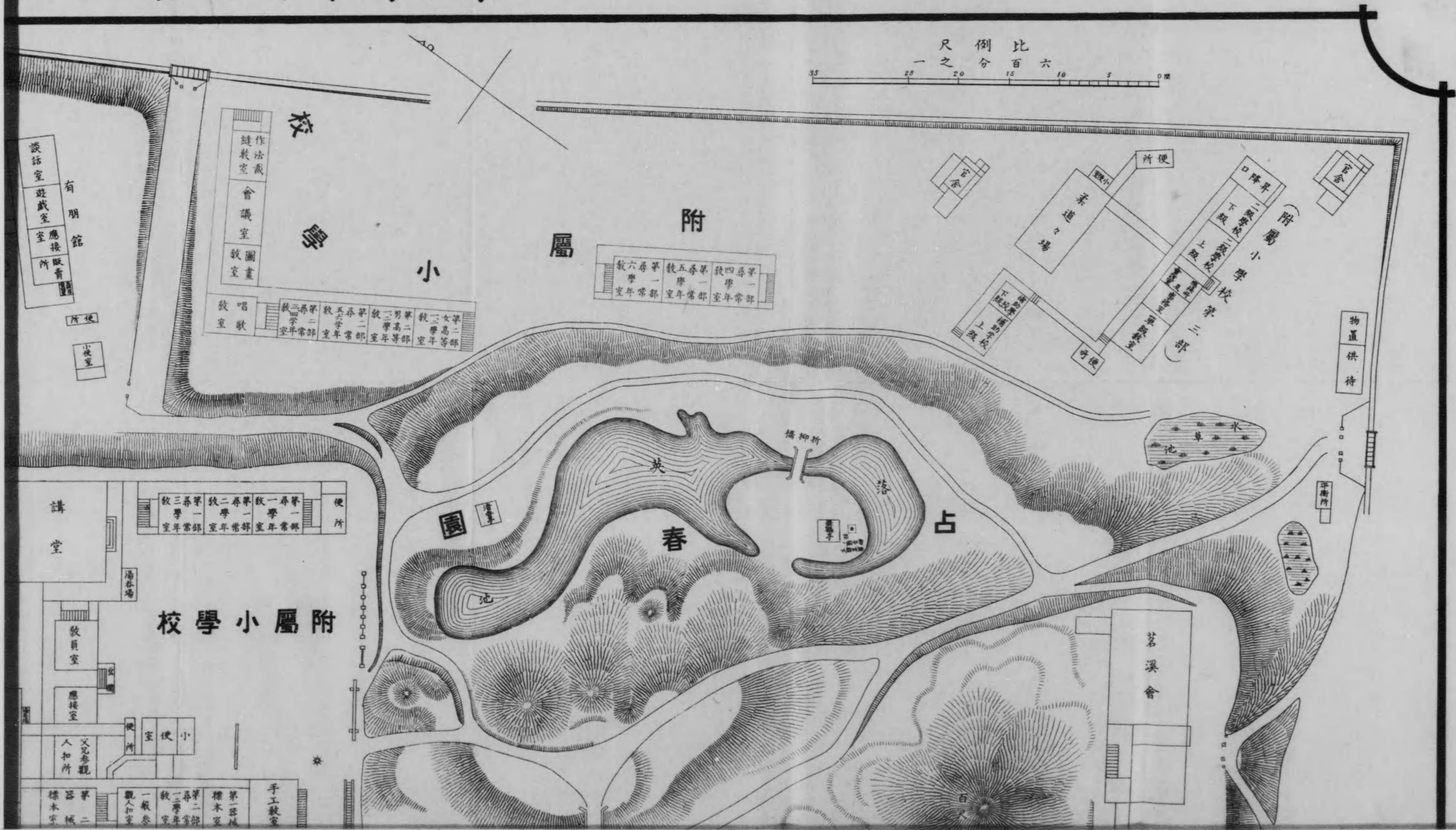
東京高等師範學校經費累年比較圖



東京高等師範學校略略



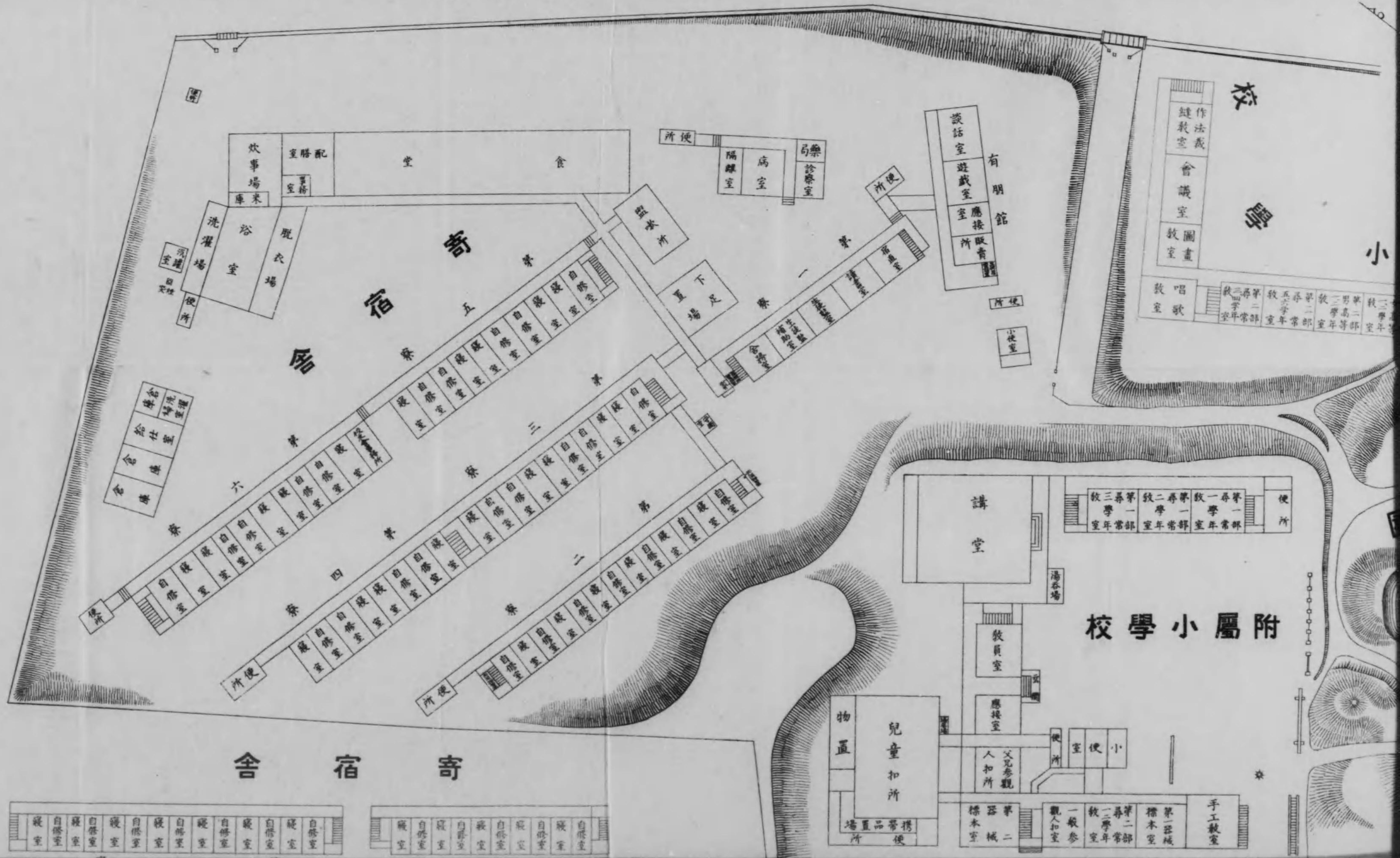
比例尺
六百分之一



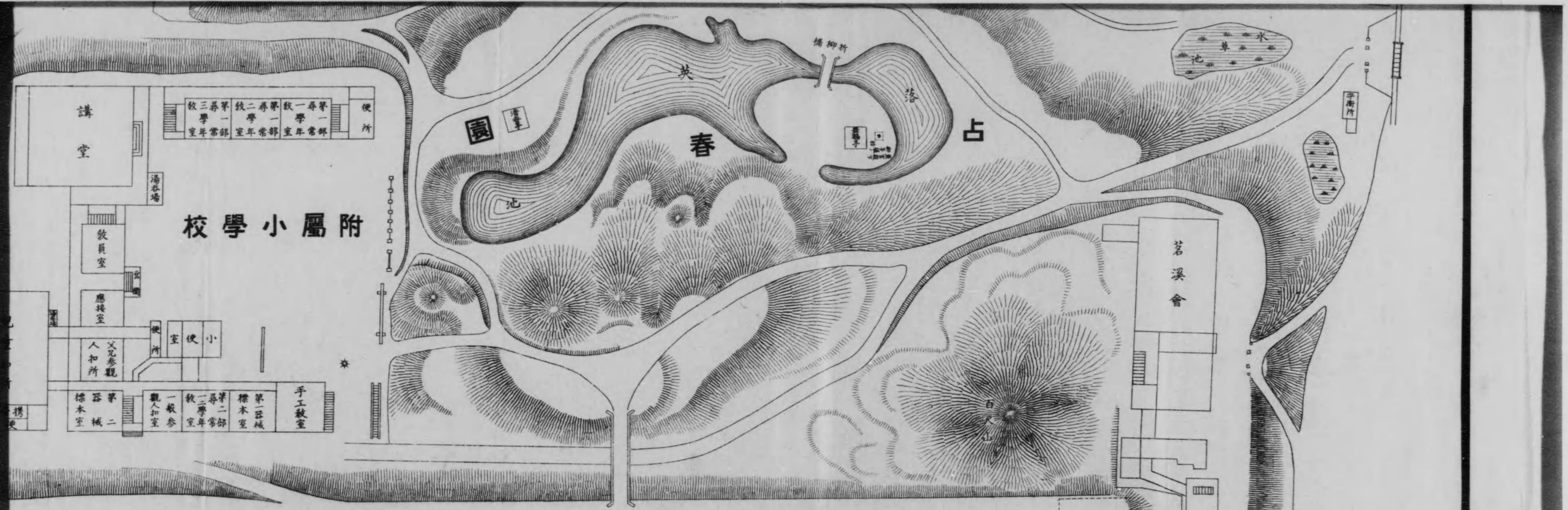
總地二坪五萬五千六百八十八坪
 建坪二萬三千四百八十二坪
 階坪三千二百一十一坪

(町窪塚大區川石小)

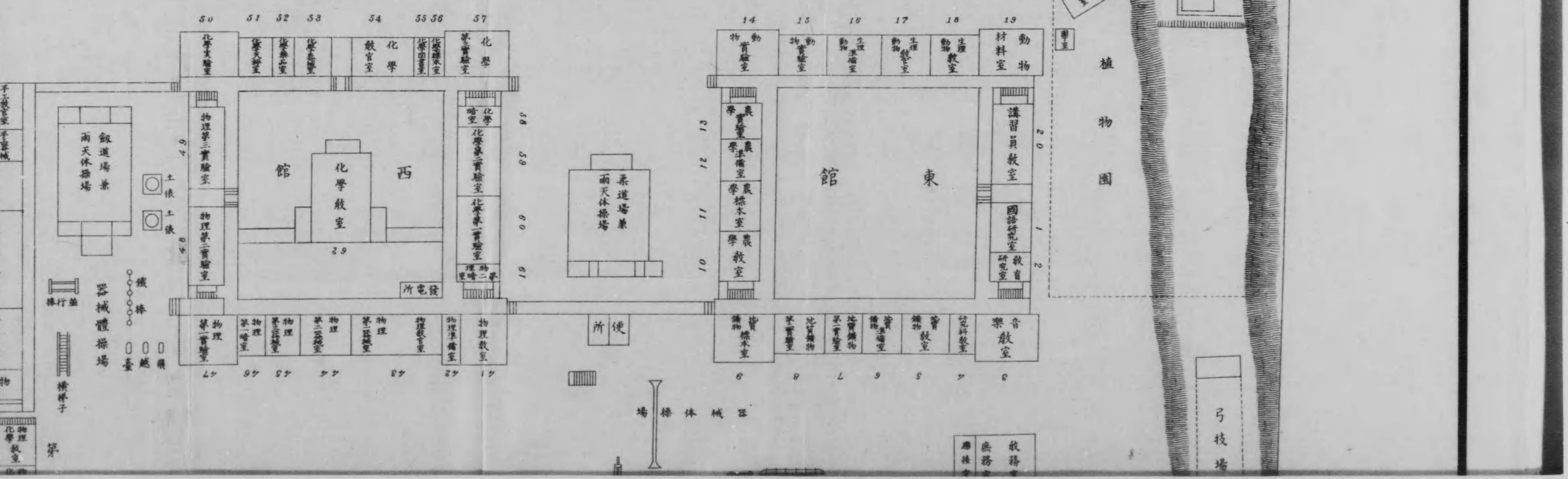
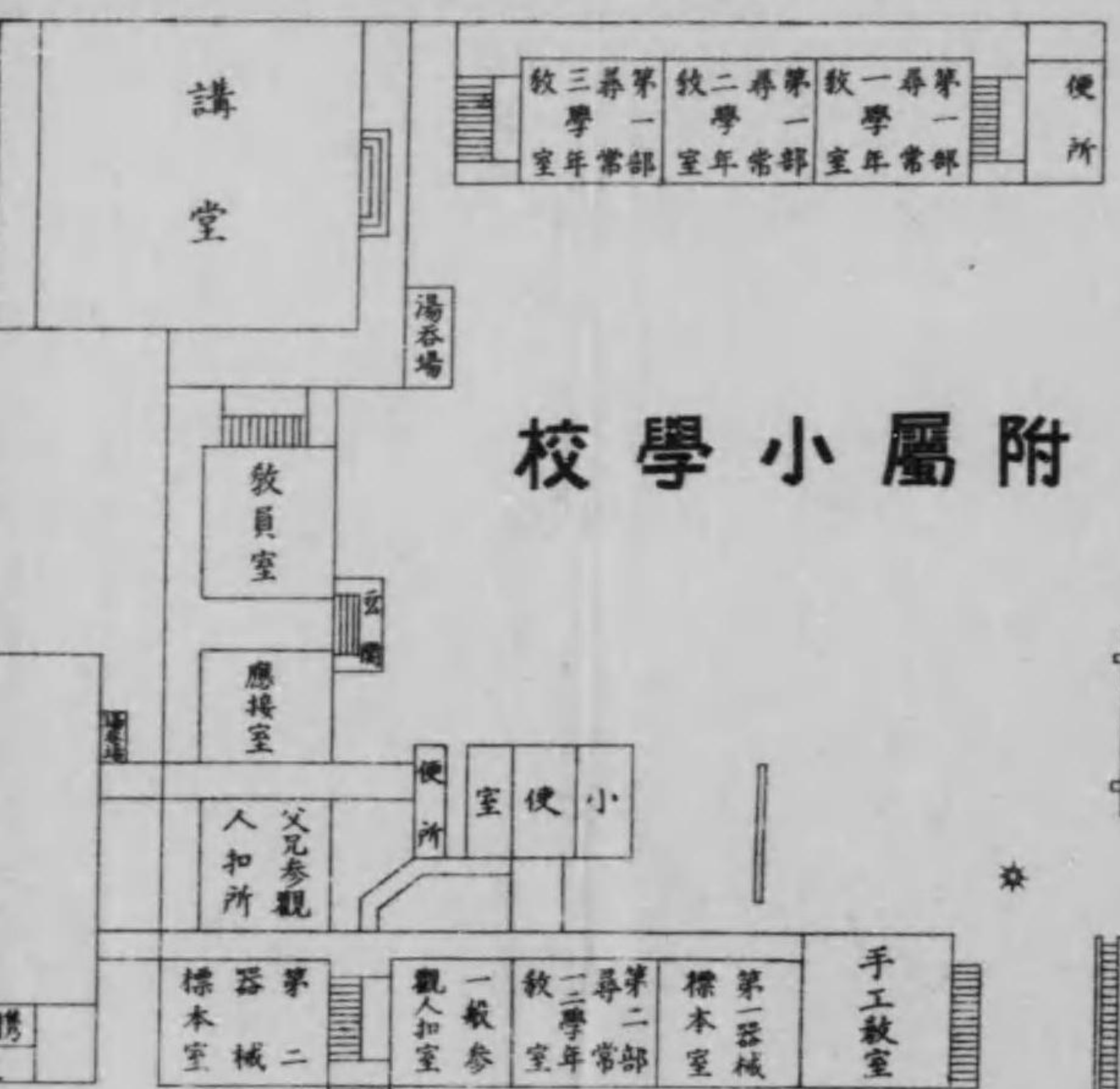
京高等師範學校略圖



朱書八階上



附屬小學

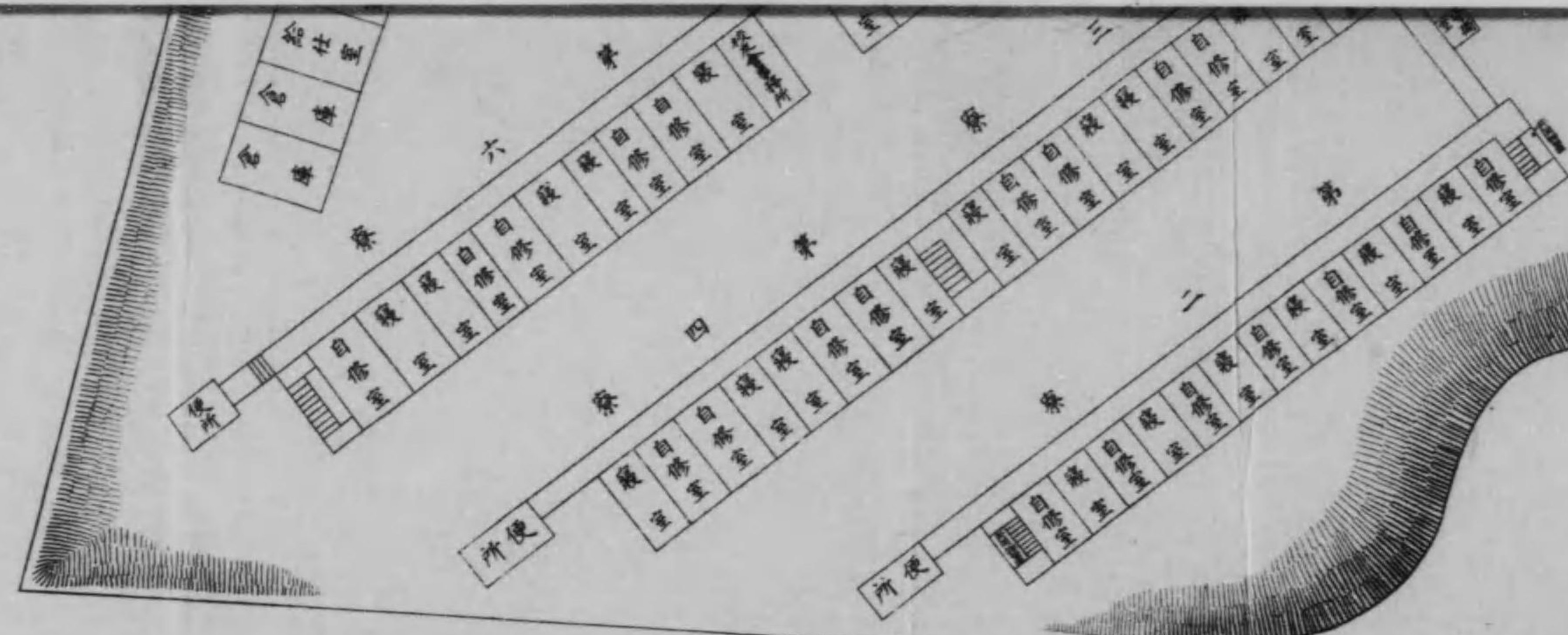


弓技場

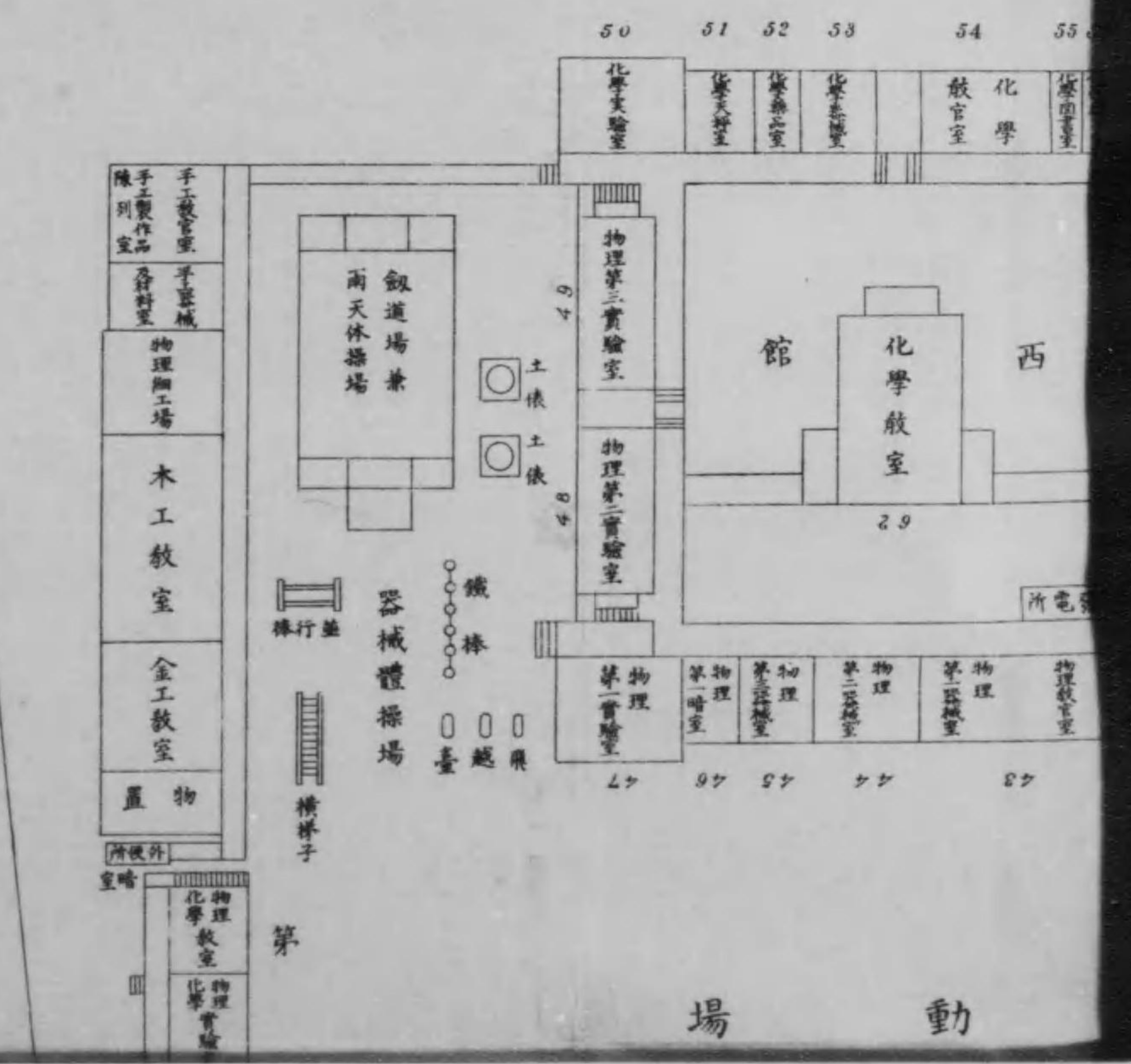
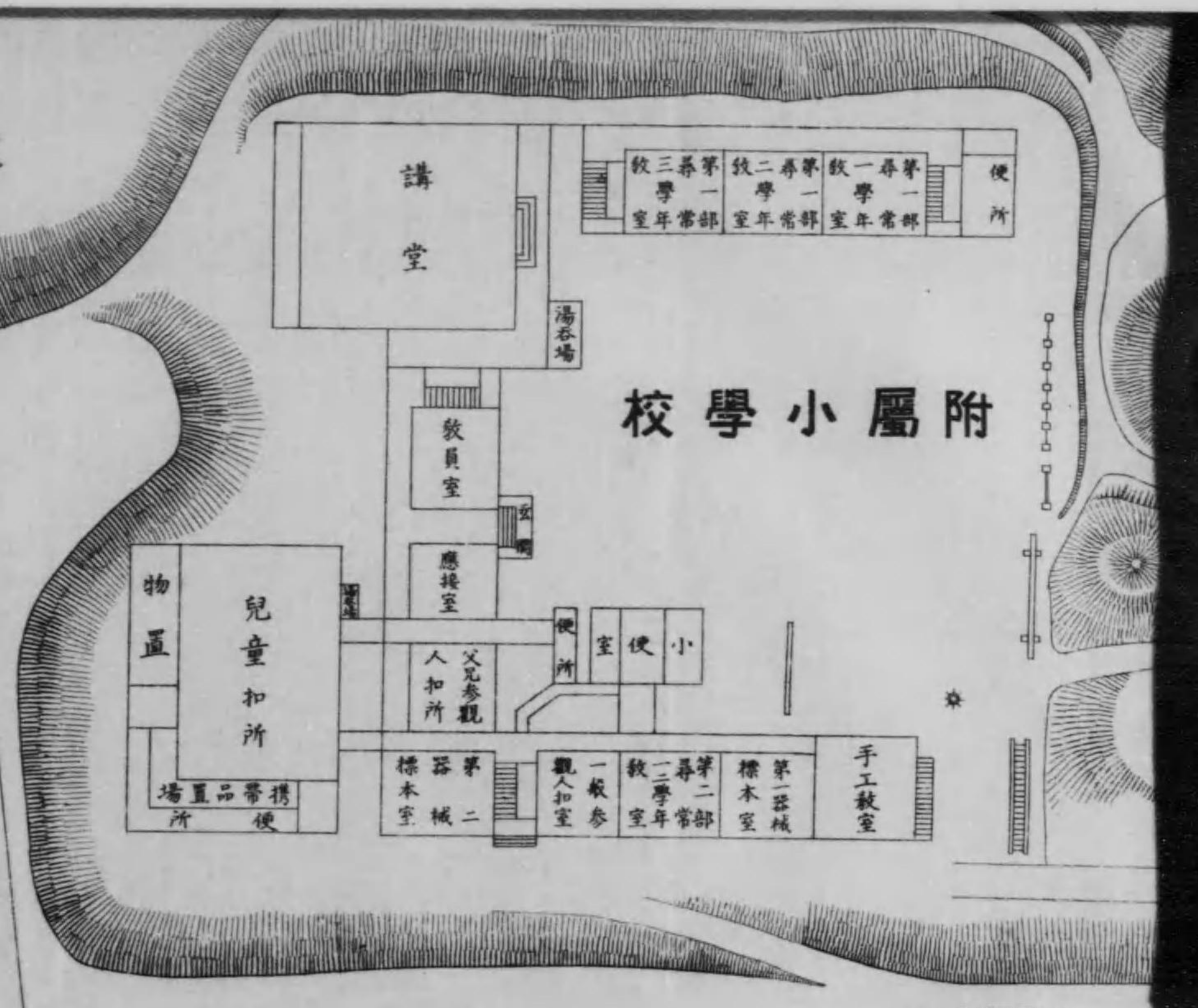
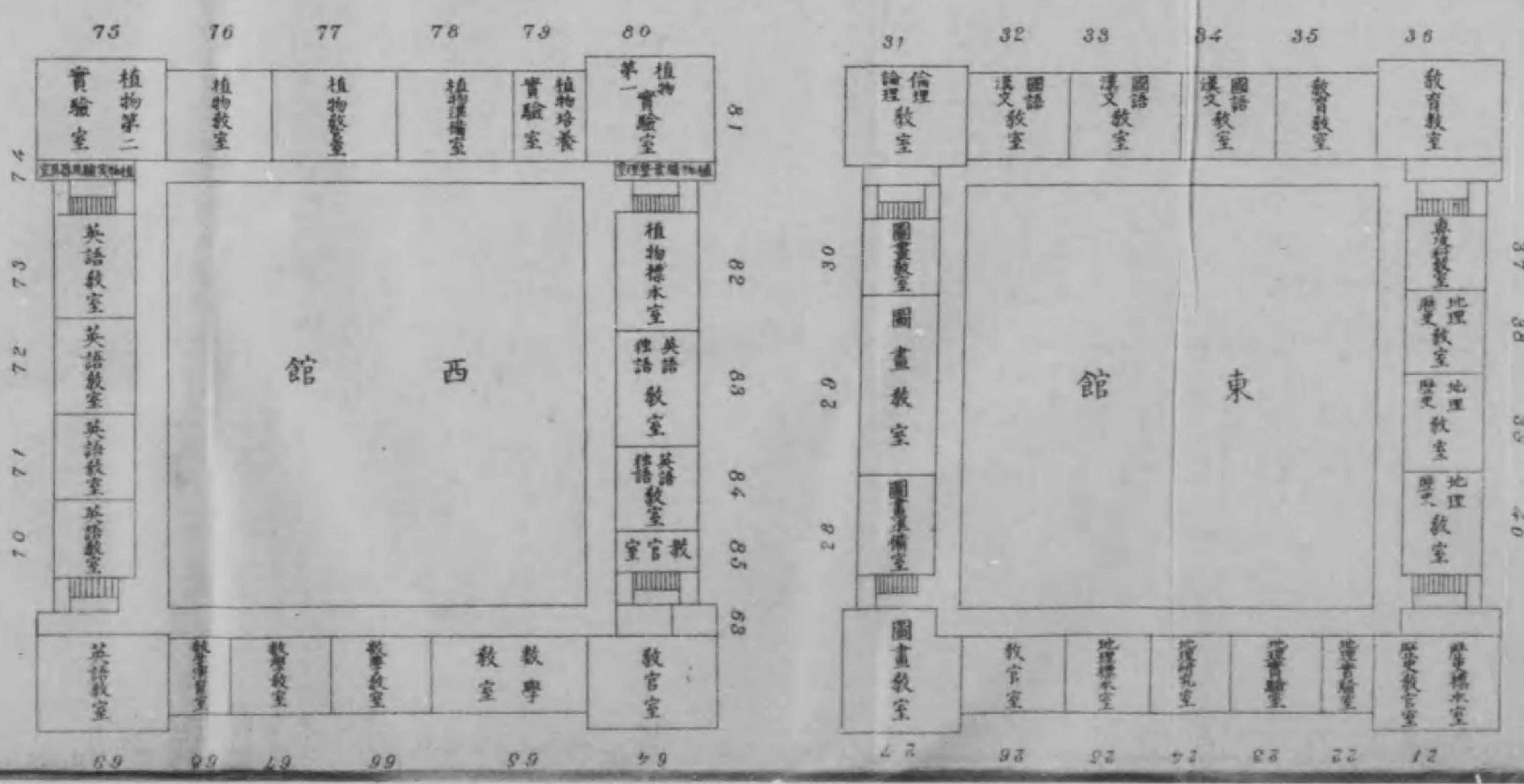
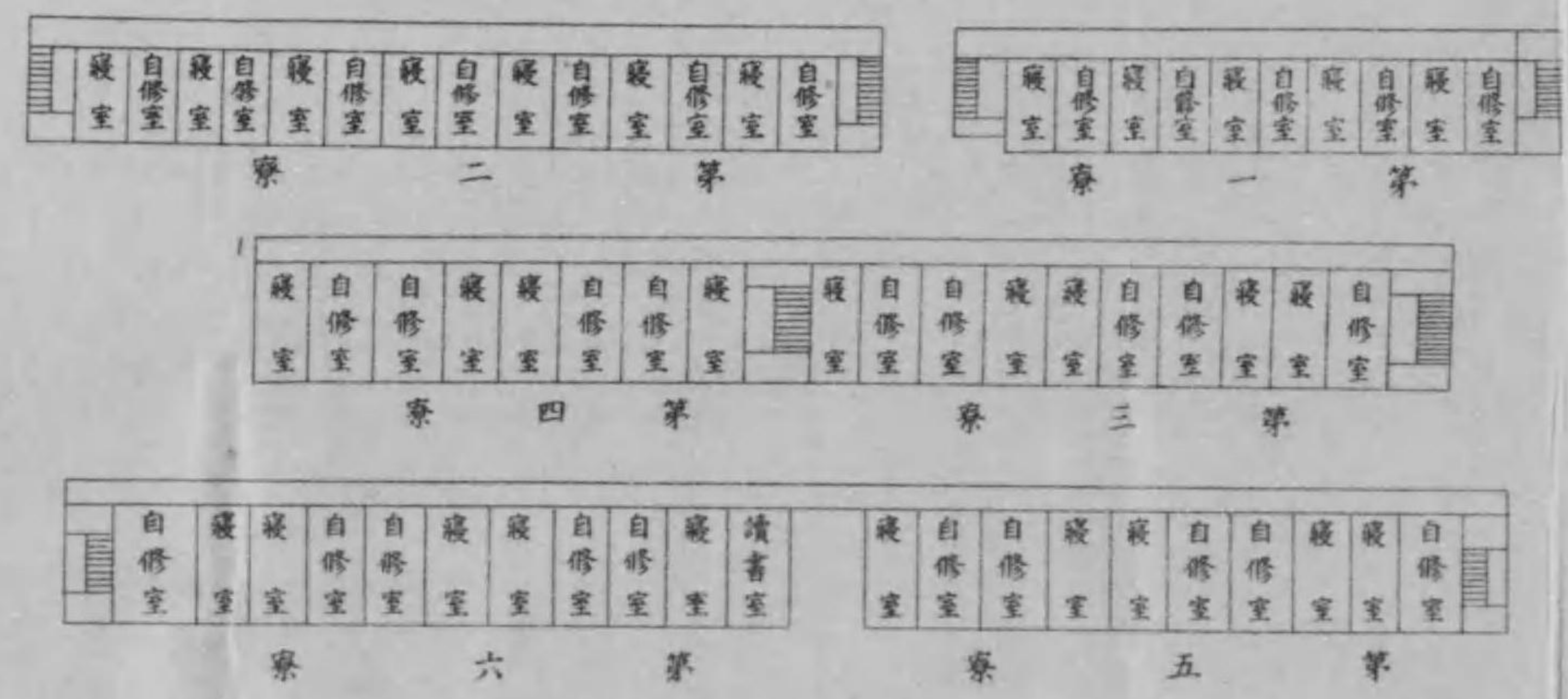
器械操場

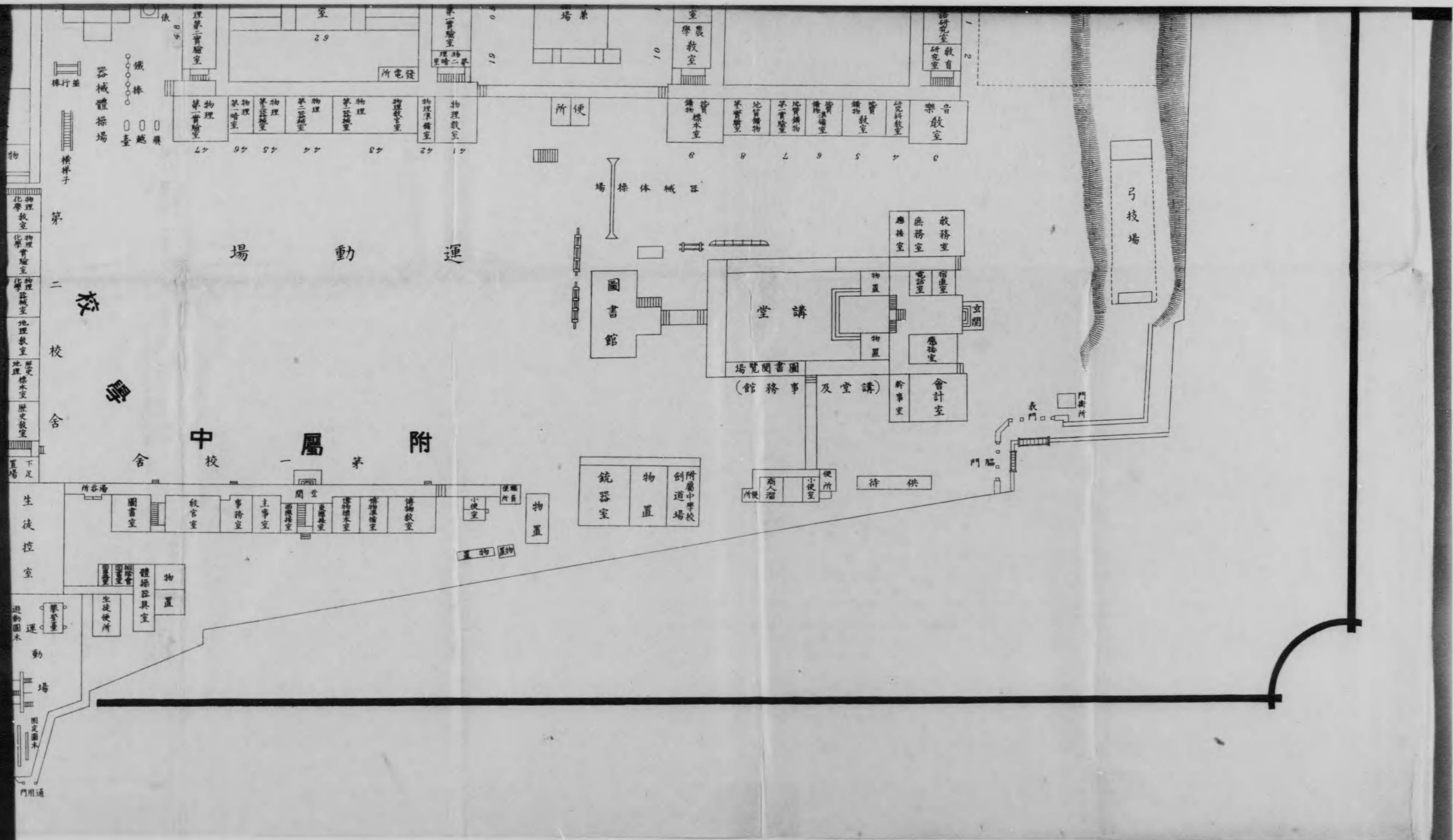
教務處

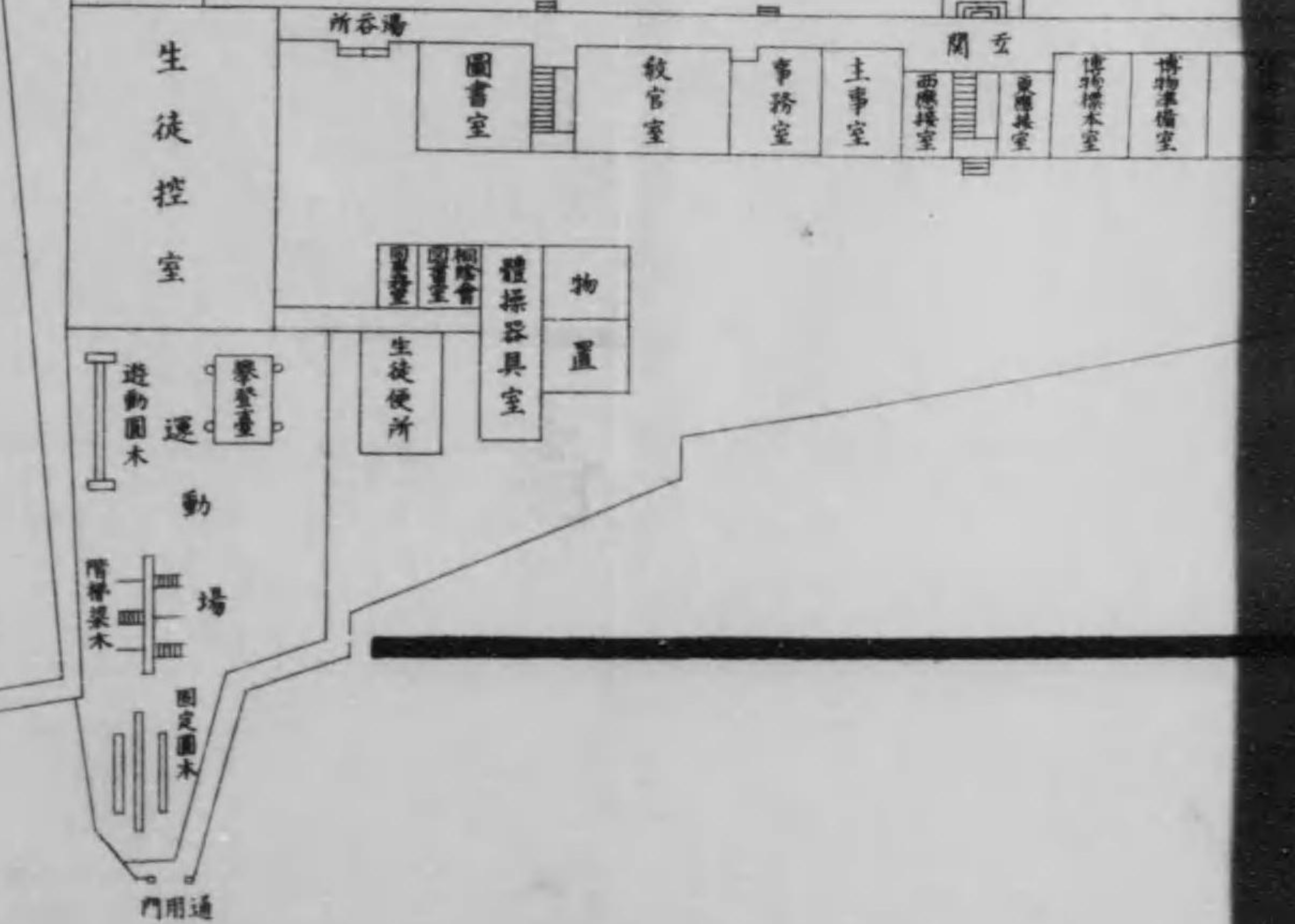
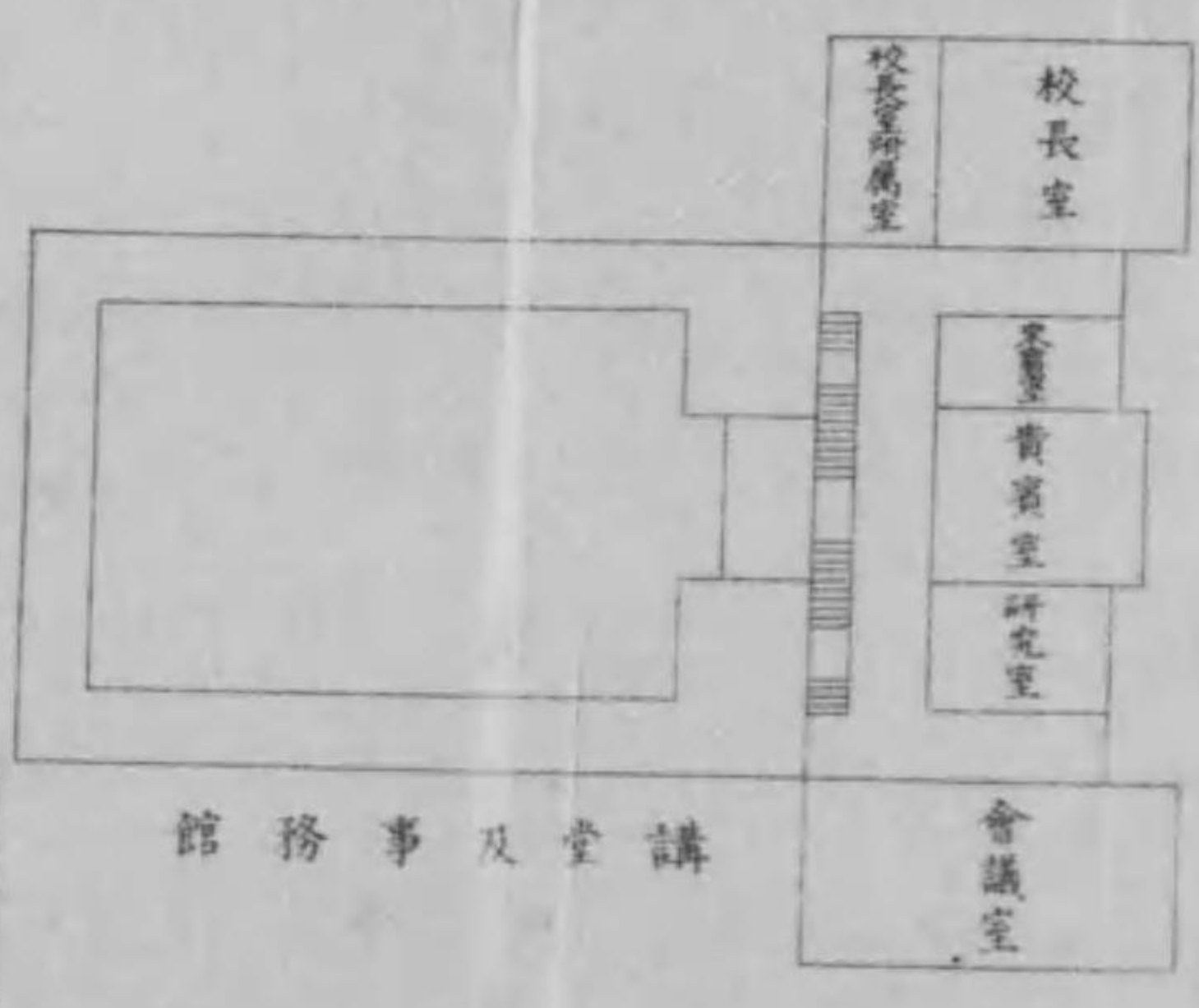
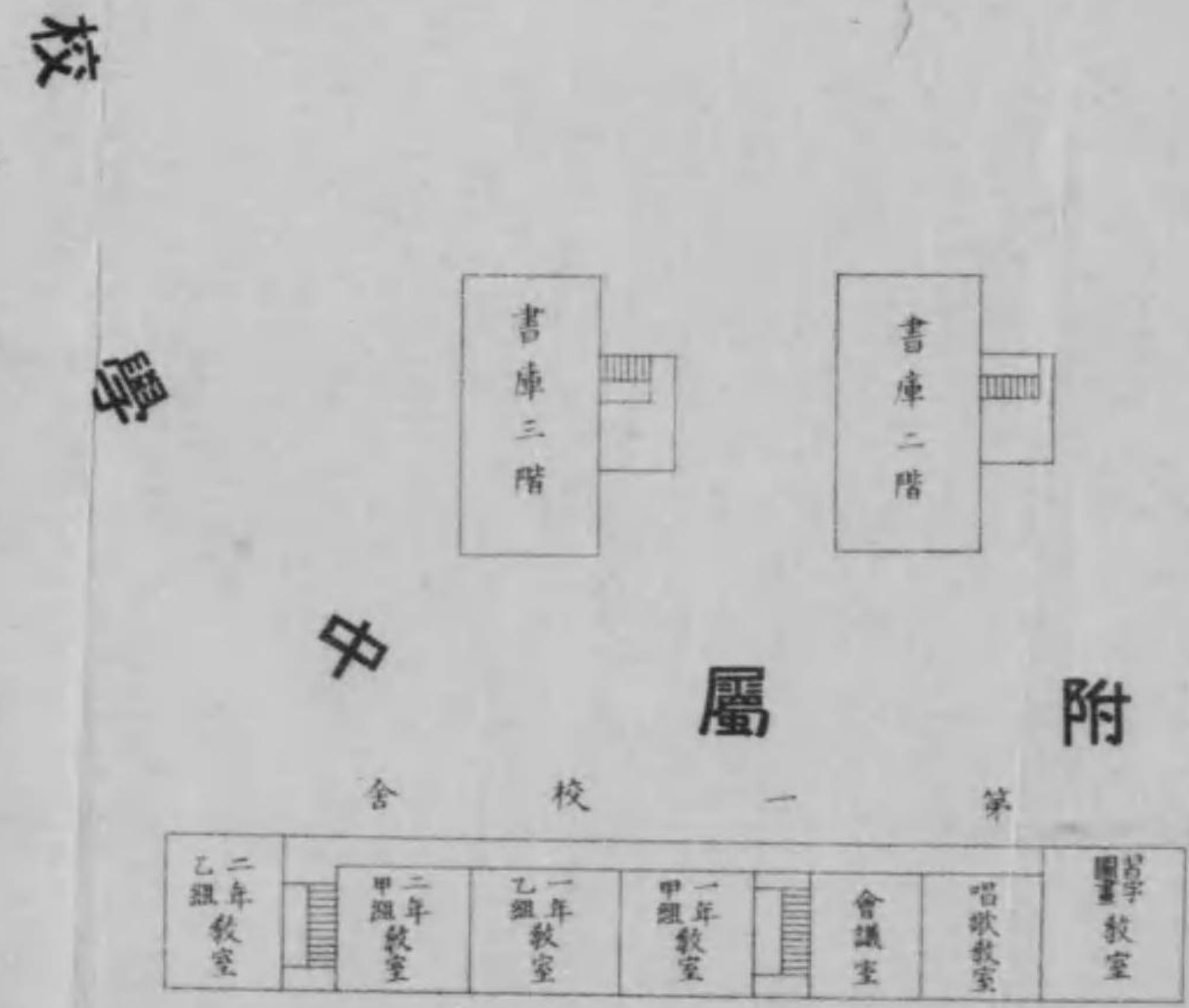
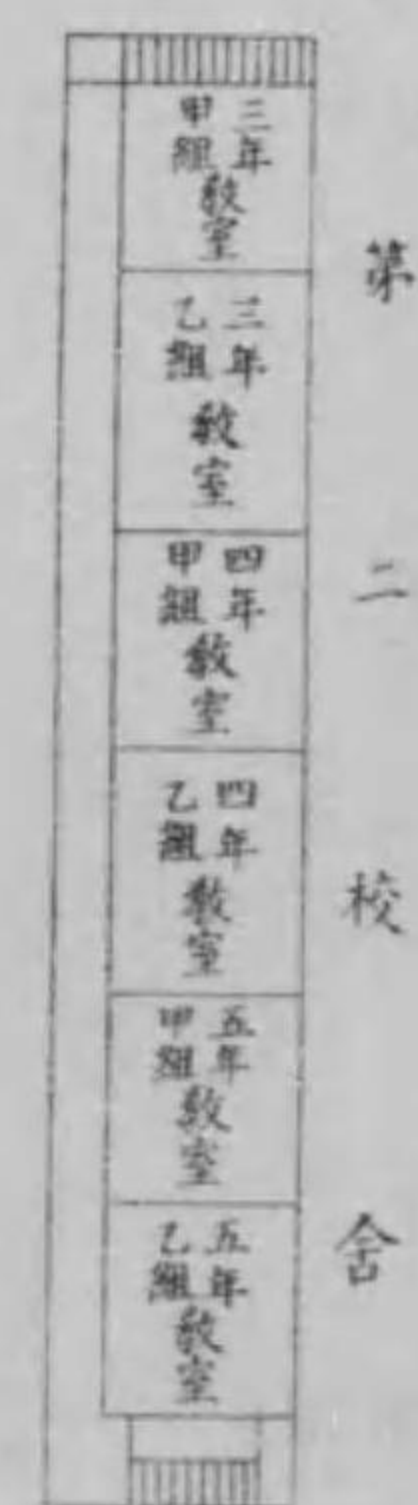
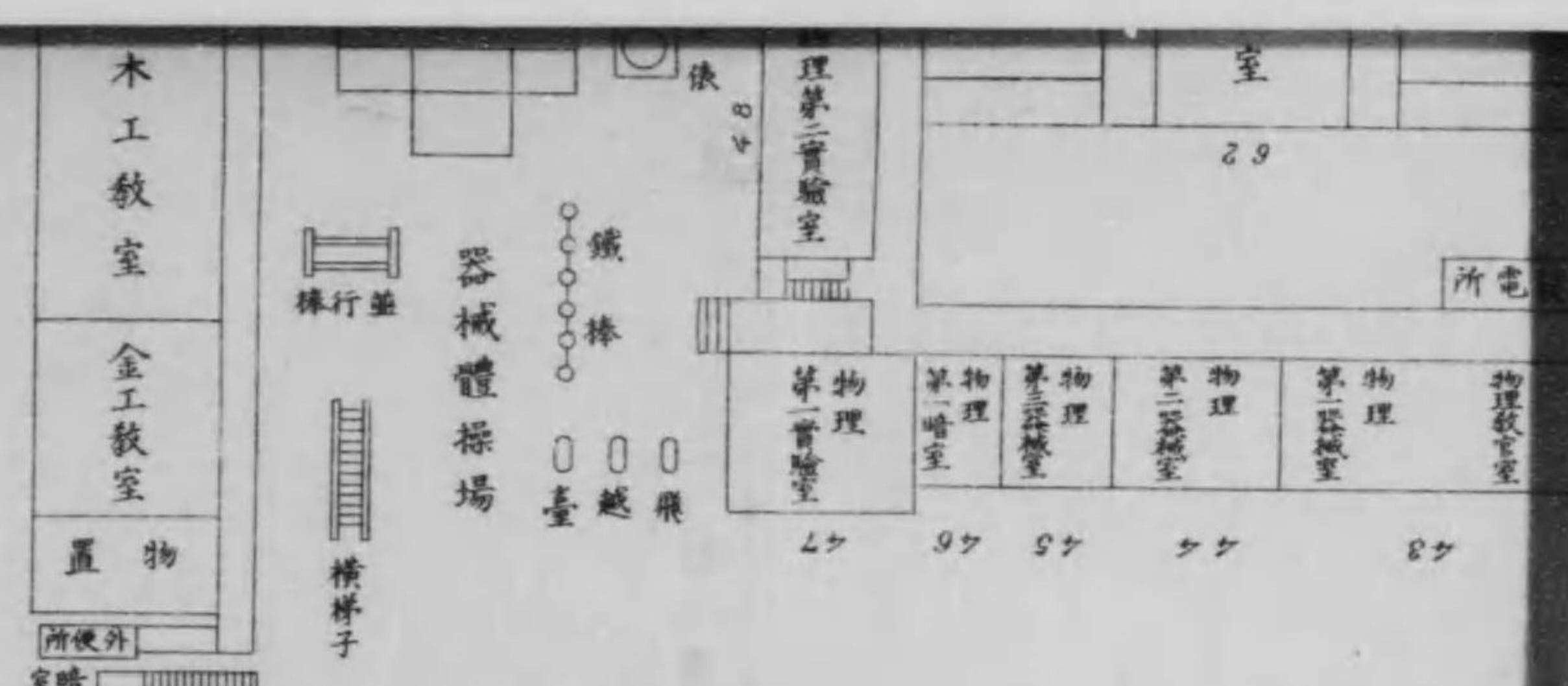
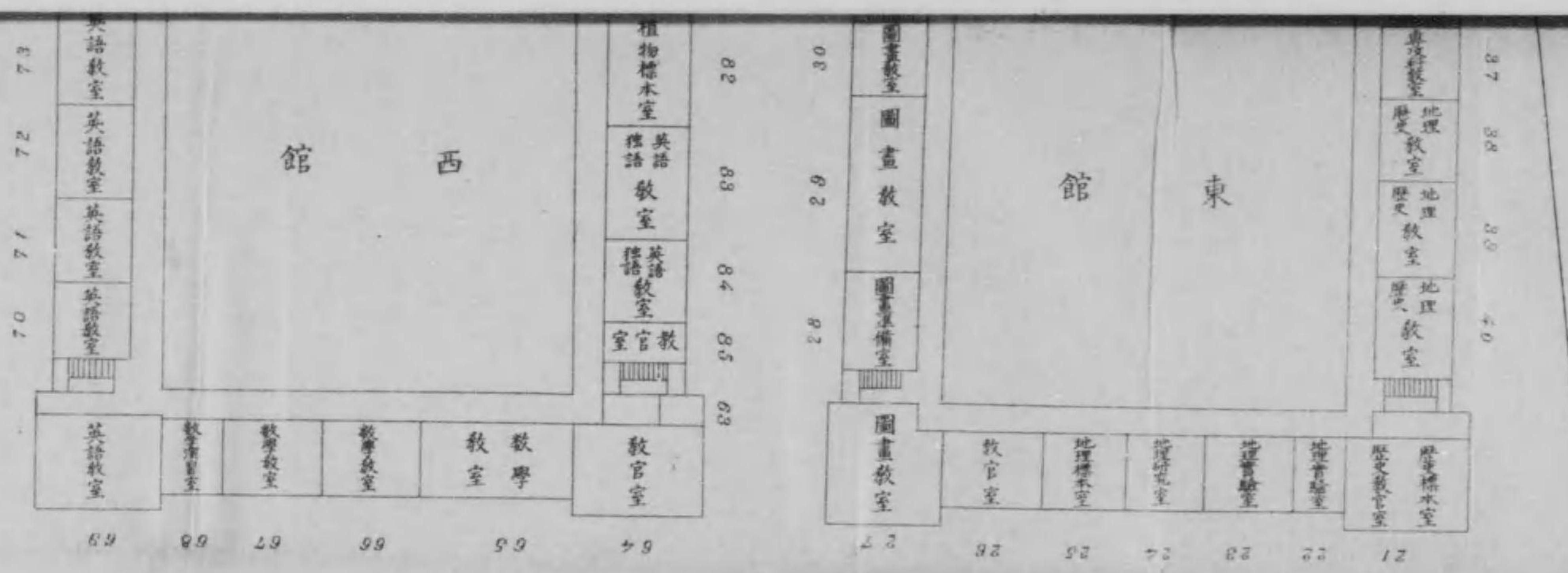
朱書八階上



宿舍







廣東省立第一師範學校建築圖

動場

第二校

第一校

中校

第一校

館務事及堂講

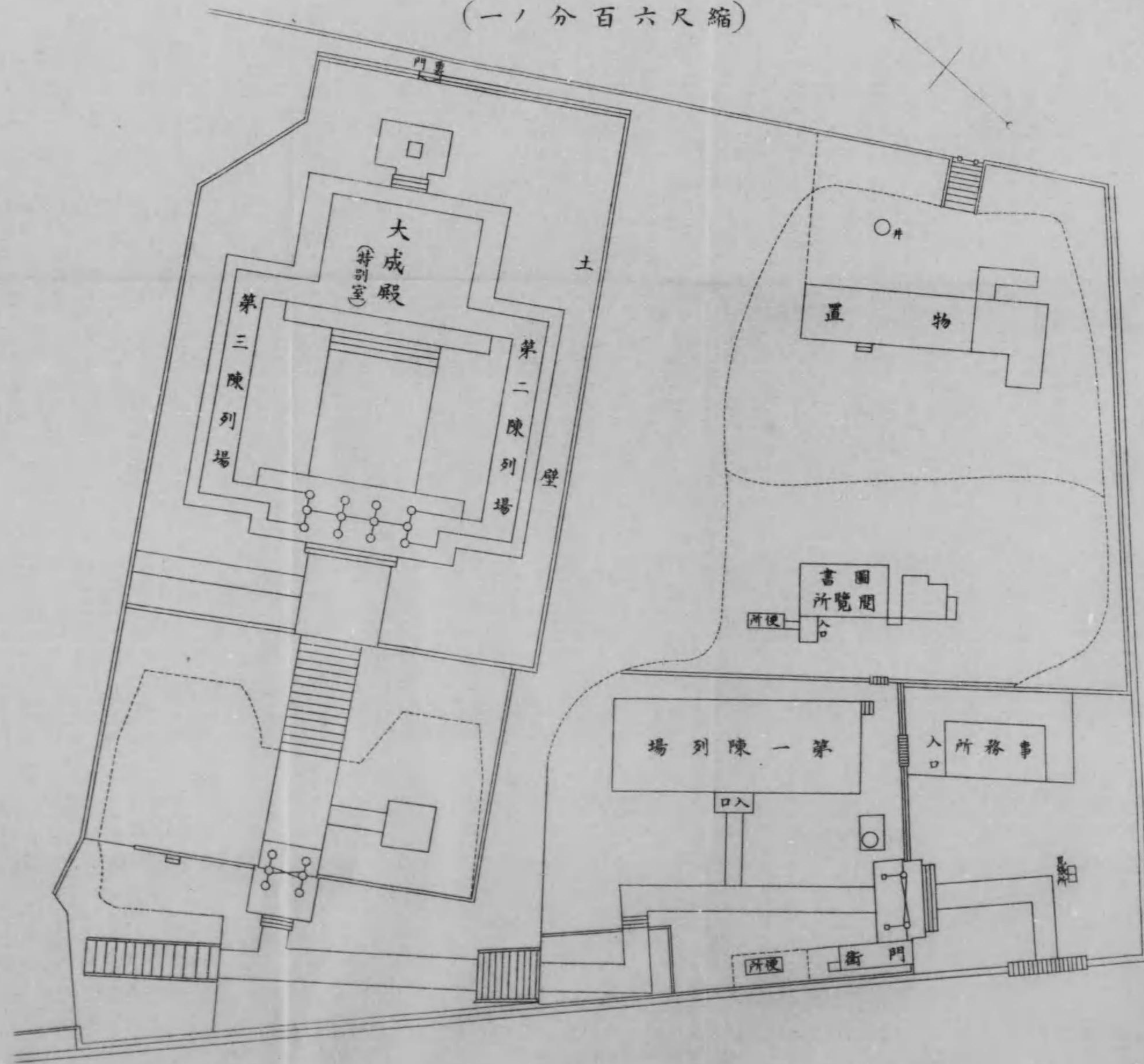
運動場

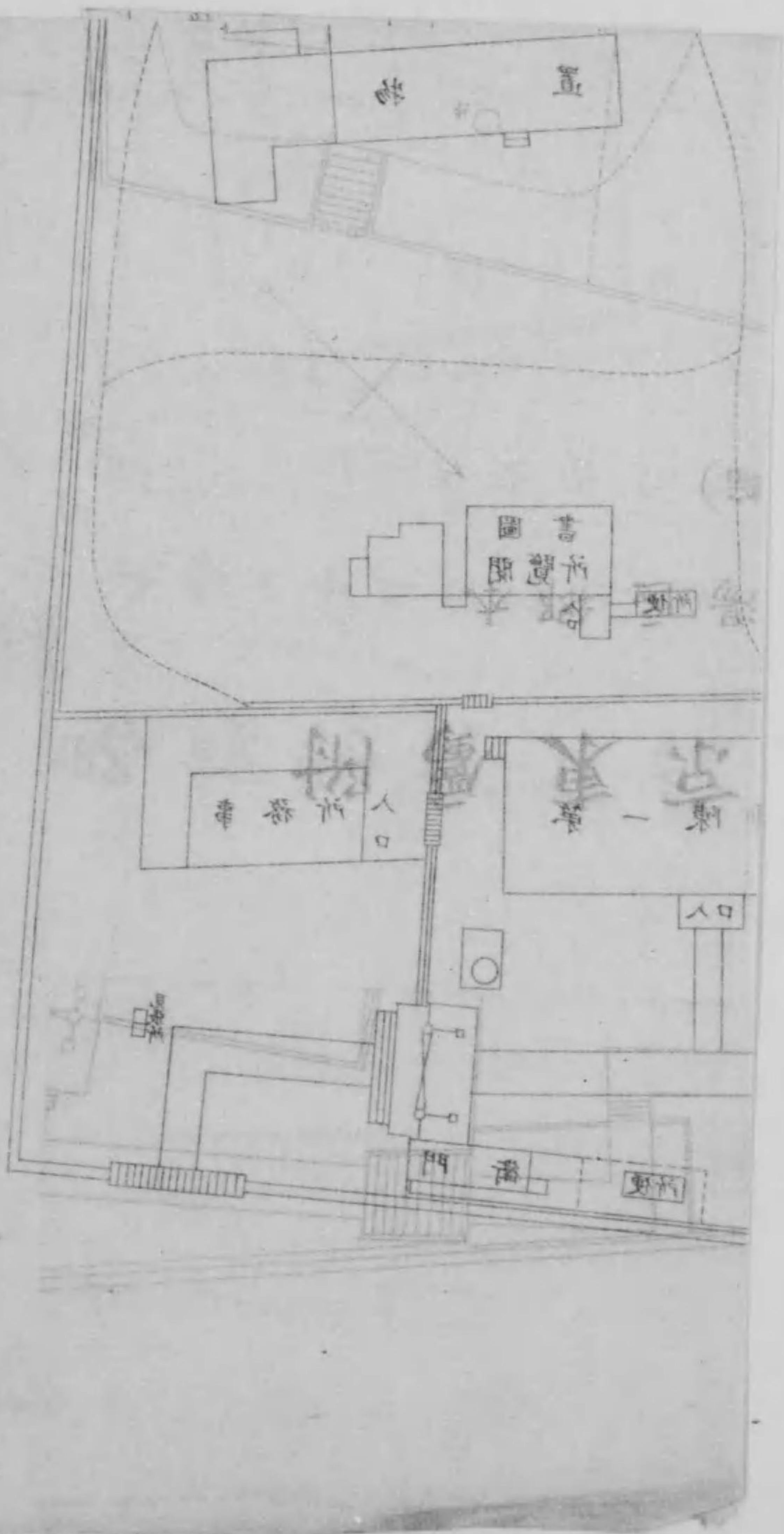
門用通

附屬東京教育博物館略圖

本郷區湯島三丁目二十三番地

(縮尺六百分之一)





大正元年八月十日印刷
大正元年八月十五日發行

東京高等師範學校

印刷者

東京市神田區美土代町二丁目一番地
島 連太郎

印刷所

東京市神田區美土代町二丁目一番地
三 秀 舍

賣 捌 所

東京市日本橋區通三丁目十四番地
丸善株式會社

同

大阪市東區博勞町四丁目
丸善株式會社支店

同

京都市三條通麩屋町西へ入ル
丸善株式會社支店

電話
本 寄 附 附
宿 屬 屬 附
校 舍 校 校 附
番 番 番 番
二 一
八〇四六一二七
〇一三五八九一
二四〇〇八九六

274
16

終